

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS

2023年夏

154

特集 「温かな」国バングラデシュ



公益社団法人 アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



● 主な目次 ●

「巻頭言」ふと思うこと	02
特集：「温かな」国バングラデシュ	04～06
ウクライナの病院 機能再建へ	07
コスモニケタンを支えるサトウキビ	08・09
日本の栄養学 ネパールに生かそう	10
いのちの井戸、結び合う手	11
「井戸ができた村」	12～15
トルコの地震被災地報告	16
障がい者支えエコブリック作り	16
「JAFSプラザ」=国内の活動	17～19
アコーディオン+沖縄三線=コスモニケタン支援／草原の国キルギスを身近に／海へ流れ込むプラごみを確認 他	
2022年活動報告・2023年支援事業	
水／貧困対策／環境／子ども／雇災者支援／国際交流／国内での普及啓発	20～28
2023年度 社員総会報告	29
イベントカレンダー2023年夏	30・31
新入会員紹介・領収報告	32・33
「活躍するアジア人」	34
「環境コラム」	35

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2023年3月現在、井戸建設（累計2254基）や植林（累計259万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

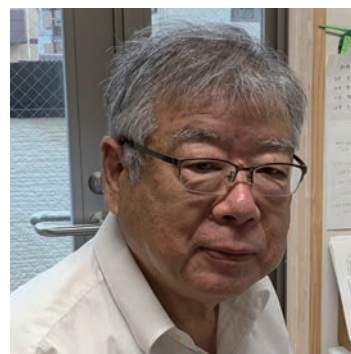
JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

保育園の園長を30年くらいしているが、これからの保育園は少子化に伴う「縮小と閉園」という危機が待ち受けている。それはいつ頃かと言え、ある人は「もうすでに来ている」と言い、京都市では300ある保育園のうち、半数近い保育園が定員割れを来している。少子化による保育園の窮乏は徐々に浸透しているが、各保育園は保護者や児童のニーズに応えるべく、さまざまな保育活動を展開する。「看護師を配置して病後児の受入事業」「臨床心理士をもって個別療育ケア」「保育園の子育て支援のセンター化」などである。

ふと思うこと



井上 勇一
アジア協会アジア友の会 理事

JAFSの活動に参加して7年になる。創設者の村上事務局長の働きは、1976年頃から知っているが、設立されたJAFSは44年になる。この間、海外ではAFSというネットワークが作られ、国内も地区ネットワークが整備され、募金組

て、今のJAFSの関係づくりがなされ、AFSの人との関係がある。考えなければならぬことは、「明日のJAFS」である。しかも40年、50年の歩みは、世代交代以上に理念・目的の再構築の時ではと思うのである。

JAFSの主題は「生命の水、うるおす未来」。副題は「すべての人に15ℓの水を届けよう」である。東京都の一人当たりの水の消費は一日214ℓだそう。日本の家庭では、消費する水の60%が風呂とトイレだそう。一日15ℓの水」という数字は、大量に水を消費する私たちへの問いかけのように思われる。JAFSが近未来に至るまで「水」に係わる支援をアジア地区で続けているとすれば、日本社会が文化的にも経済的にも健全に成長している徴となるのではなからうか、とふと思うのである。

● プロフィール ●

いのうえ・ゆういち 1949年生。現在、日本キリスト教団洛南教会牧師、洛南保育園園長。地域活動として、保護司（京都市南区）、教師（京都府立所）をしている。今年の教会は「隣人を愛し、人に仕える。神を愛し、教会に仕える」を目標にしている。2016年、アジア協会アジア友の会理事就任。

JAFS 会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

「温かな」国 バングラデシュ



リキシャがあふれるダッカの街路（右）とネトロコナ県の農村（左）。ともに、どこか懐かしさを誘う風景でした



アの最貧国の一つだが、近年は多国籍製造業の進出が著しく、高い経済成長が期待される新興国NEXT11の1つに数えられている……。そしてもちろん、JAFSが支援活動を展開している大切なパートナー国です。そのバングラデシュを4月29日から9日間、プロジェクト地視察のために初めて訪ねました。手探りで駆け足の旅でしたが、多くの人と交流できました。とりわけ私の胸に焼き付いたのは、どこか懐かしさを誘う街や田園の風景と、笑顔を絶やさな人々の心の温かさでした。

（JAFSスタッフ 坂口 優）

「まず食事」がご当地流
気温40度の猛暑。なじみのないイスラム教の国。これから何が起きるのだろうか、と私はわくわくどきどき。着いたばかりのダッカの街を歩いていたら、「どこから来たの？」といきなり尋ねられました。

「日本」と答えると、「日本に知り



「将来は先生に」里子が笑顔 懐かしい風景、都会に田園に

合いがいる」「日本の企業で働いている知人がいる」などと次々に声があがりました。みんな日本が大好きだそうです。日本について知っていることをたくさん話してくれました。ちょうどバングラデシュのシェイク・ハシナ首相が日本を訪問していたこともあり、それも話題にありました。おかげですっかり緊張がほぐれました。

舗装された道路には、車のクラクションやリキシャ（人力車）のベルが鳴り止みません。周辺には新しい高層ビルが立ち並んでいます。どこかアジアを思わせる懐かしい雰囲気があります。

お客さんが来たらまず一緒に食事をする。これがバングラデシュ流のおもてなしだそうです。私も訪問先で、早速およばれました。言葉は分からなくても、食を通じてコミュニケーションが取れ、つながりを感じることができました。

モノがあふれ、個々人の活動が多くなっている日本では、人と人とのつながりが希薄になりつつあります。日本の地域社会で失われつつあるものの大

切さに改めて気づかされました。

弟たちと一緒にベッド

現地提携団体BDP（Basic Development Partners）の活動地域の一つ、北部のネトロコナ県を訪れました。ダッカ市内から車で6時間。車道の端は舗装されていませんが、日本とさほど変わらない道路がネトロコナ市内まで続く。同市内から活動地域まで道は土道。辺り一面に広がる水田地帯。住民たちは稲作に従事しています。バングラデシュでは5月が稲の収穫時期で、一家総出で収穫作業をしていました。子どもたちも早朝や学校が終わると手伝います。

JAFSが支援している里子の一人、同県ベタティ村のジャンナトゥルさん（7年生）の家を訪問し、家の様子を見ながら、生活状況や家族について聞きました。

私「こんにちは。私はJAFSのスタッフで、バングラデシュでの事業を担当しています」

ジャンナトゥルさん（以下…J）

私「こんにちは」

私「何人家族？」

J「4人。部屋を案内したいから入ってください」

私「ここで勉強してるの？」

J「うん！」

私「暗くない？」

J「暗いけど大丈夫！ ここがベッ

JAFSの里子であるジャンナトゥルさん（左端）とお母さん、弟たち。右端が私。トタンで覆われた質素な住まいですが、明るい笑顔を絶やさない一家でした。5月2日、ネトロコナ県ベタティ村



ドで、弟たちと一緒に使ってる。ここがお父さんとお母さんのベッド。ここがキッチン」

私「水道は？」

J「ない。水道がある近隣の家で水をくませてもらう。トイレはここ」

笑顔で部屋を案内してくれました。

私「学校は遠い？」

J「2 kmくらい離れたところにあるよ。毎日徒歩で通っている」

私「将来の夢は何？」

J「小学校の先生」

私「勉強は好き？」

J「うん、好き！」

ニコニコしながら話してくれました。家族は、彼女が里子支援を受け、中等教育を受けられていることにとても感謝し、娘がこのまま勉強を続けられるよう願っていました。

村の道で、強い日差しの下を仲良く学校に通う子どもたちに出会いました。表紙参照。この地域では、トタンで覆われた家で暮らしている人が大半です。薄暗い部屋で勉強し、ベッド1つを数人で共有する子どもたち。決して裕福とは言えない環境ですが、みんな笑顔であふれていました。

J A F S 初の活動地へ

翌日向かったのは、南東部チッタゴン県チャンドラゴナ地区。ここは丘陵地帯です。この町を訪れるのにも、ダッカから車で片道6時間かかりまし

た。チャンドラゴナ地域の人々は、ダッカとはまた違った雰囲気、違った顔立ちでした。

パキスタンからの独立戦争の傷跡が残る1981年、同地区で医療支援と農村の貧困層の生活改善をしていたS・M・チョードリー博士がA F S バングラデシュを設立しました。

J A F S は、水インフラと教育を基本に、同地区の字を読み書きできない



1981年にJAFSが寄贈した井戸で昔のことを話してくれたコミュニティのおじさん。井戸は2022年まで使われていたという=チッタゴン県チャンドラゴナ地区

寄贈井戸が昨年まで41年間現役

J A F S が81年に寄贈した井戸があると事前に聞き、見に行きました。なんと2022年まで、コミュニティの人々によって使われていたようです。

井戸を見ると、そのコミュニティのおじさんがやって来て、話をしてくれました。

井戸の深さは350ft（約107

女性や子どもたちを対象に、教育支援をしていました。大型サイクロンが同地域を襲った91年には、緊急災害ワーカーキャンプを実施し、そこに参加した1人であるM・H・ザマン氏が活動に共鳴し、A F S ダッカを設立。こうして、当会のバングラデシュでの活動が広まっていきました。つまり、バングラデシュでのJ A F S の活動は、この地から始まったのです。

m）。4世帯150人の住民たちで修理、管理しながら大切に使用していたようです。水位が下がっていったため、今は使われていないとのことでした。「この井戸の水質はとても良かった」と笑顔で話していました。

直接話を聞くことができ、私自身とても感動しました。寄贈した井戸が大切に40年以上使われていたことに、「すごい！」と連呼すると、おじさんもニコニコ。現地の言葉は分かりませんが心で通じるものを感じました。

現地の人々の喜びを、J A F S の活動を応援してくださっている方々にも届けたいと思いました。支援してくださる方々と現地の人々が直接関わる機会は少ないですが、私が感じた喜びや感動をより多くの支援者の皆さんに伝えていくことで、共感してくれる人が生まれ、共に活動してくれる人が生まれていくことを、肌身で感じました。

あらゆる場面で開発が進んでいるバングラデシュ。一方で、取り残されている地域や人々も存在します。

人口が増え、エネルギーに満ちあふれています。若年層が多く、この国を引っ張っていく存在であることを実感しました。そんな若い世代の人とのつながりを今後バングラデシュで築いていきながら、その時代に応じた形で、取り残される人がいない社会、地域、コミュニティに対し、活動を展開していきたいです。

ウクライナ 破壊の病院 機能再建へ オンラインでも現地へアドバイス

ロシア軍による攻撃が続いているウクライナ。スームイ州のトロスタネツカ市立病院が破壊されたことを本誌153号でお伝えしました。J A F S は、同病院再建への支援を3月30日から始めました。外科エリア修復、リハビリテーション機器の設置、日本の医療チームのアドバイス

による医療活動の回復を目指し、日本の医師・理学療法士らからなる医療アドバイsteamを結成して、現地病院の医療関係者とオンラインで会合を重ねています。同病院のアナトリー・アナトリエヴィチ・プラーフティラ院長の写真から、連帯と支援を訴えるメッセージが届きました。

アナトリー院長は「J A F S の支援のおかげで日本の皆さんとつながりができました。大変うれしく感じています」と感謝し、次のように話しています。

ここ数カ月、病院があるスームイ州の辺りには大きな攻撃がなく、戦争による負傷者が運ばれることがなかったため、負傷者の治療後のリハビリテーション再開を目指していました。

ところが5月22日、州の国境付近でまた攻撃があり、負傷者が運び込まれることが増えています。幸い病院近辺は攻撃されていませんが、昨年の侵攻直後の攻撃で破壊された外科エリアが未修復で、手術室が足りません。対応できない患者が多く、歯がゆさを感じています。



リハビリテーションも再開しなければ、負傷者の機能回復ができません。ようやく必要な人数の理学療法士と作業療法士を確保できましたが、リハビリ機器や部屋の整備が追いついておらず、限られた人数の患者に短期間の訓練しかできていません。入院もさせられず、外来での対応のみです。

作業療法士のルスランさんによる

と、病院は機器が到着したらすぐにリハビリを再開できるよう、医局を仮のリハビリ室にするそうです。戦争負傷者の多くは、爆破物が身体に入って神経が傷ついており、機能回復訓練が必要です。中には心理的にも不安定になる人がいます。

理学療法士のザヌヌさんは、市民の状況を次のように語りました。

今は背中の痛みを訴える人たちが多いです。生活の制限や地下の硬い場所で寝起きを強いられることによるのでしょう。戦争が続く中で、一般市民の不調の治療や処置も大変重要です。ハイドロセラピーと言われる、プールを用いたリハビリができれば、多くの市民が癒されると考え、ウクライナ政府へ設置を申請しています。

「顔の見える支援をしたい」

ウクライナの現地からは、どのような治療や訓練をすれば効果的か、日本の医療チームからアドバイスを聞きたいという要望が寄せられています。次回のオンライン会合では具体的な症例について話し合うことになりました。

このアドバイスプログラムのリーダーの宮川眞一医師は「私はバングラデシュの病院に6年間勤めた経験があります。近くに病気やけがを診てくれる医療機関があるのは、どのような時にも人々に安心を与える重要な役割を担います。そして日本の医師との関係構築は、現地に行くことができない中、顔の見える支援として意義があると考えています。私自身今回の活動を通して学ぶことが多いと気づかれています。現地ではPTSD（心的外傷後ストレス障害）などの心理的・精神的ケアも今後大きな課題となってくるでしょう。それに対しても今回、日本に住むウクライナ出身の心理専門家に関わってもらえることができ、今後の援助の方向性のヒントをもらえることにもつながると期待しています」と話します。

J A F S はこの医療事業が、日本やアジアから世界の平和を願う発信につながることを期待しています。ウクライナの人々の健康を守るために、夏季募金を通じて引き続き協力を募ります。

（J A F S スタッフ 熱田典子）

コスモニケタンを支えるサトウキビ

インド・カルナータカ州ビジャプール近郊の貧しい農村の子どもたちに教育の機会を提供するためにJAFSと現地提携団体のBSVIAが設立した日印友好学園コスモニケタン。その学園がコロナ禍で休校を余儀なくされ収入が減り、教師の給与の支払いもできない状態であること、その窮地から抜け出すためにBSVIAがサトウキビの栽培で将来にわたる収入を得ようと計画したこと、そのプロジェクトへの支援を決めたJAFSコスモニケタン支援会

が寄付集めを開始したことを、昨年10月発行のアジアネット151号でお知らせしました。その結果12月末までに、目標額120万円の寄付が集まりました。皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。サトウキビ栽培はすでに現地の農業組合から資金を借りて昨年2月にスタートしており、それから1年が経ってサトウキビの収穫を終えることができました。その模様を伝える写真とレポートが現地から届きました。（JAFSコスモニケタン支援会 大本 和子）

学園存続へ総出で収穫

コロナ失職の人々にも仕事

コスモニケタン学園理事長・BSVIA代表

サチダナンド・クンバール

2022/23年度のサトウキビ農園のレポートを送ります。今回は、私たちの地域でサトウキビを栽培する最初の試みであり、この期間に多くのことを学びました。多くの課題がありますが、私たちは経験したことに満足しています。

来期こそは収穫目標達成へ

今年は期待していた生産目標には達していませんが、来シーズンには目標

モニケタン学園の教師数人が協力して、水供給を維持してくれました。

さらに、学園の子どもたちが、サトウキビへの水やりなどで私たちの仕事を助けてくれることがよくありました。サトウキビが成長しているときに、子どもたちがサトウキビをたくさん食べて、とても楽しんでいたのは興味深いことでした。学園の子どもだけでなく、この地域の子どもたちにとっても、新鮮なサトウキビを食べるのはまだで、近くの公立学校や村の子どもたちも、このごちそうにあずかりに来ることがありました。

予想していなかった出来事がありました。それは、コロナパンデミックの前には、私たちの地域の人々はマハラシトラ、ゴアなどの他の州に仕事を探しに行っていました。サトウキビの収穫中に、子どもを含む6家族15人がマハラシトラから来て、収穫や、収穫物を工場へ運ぶのを手伝いました。驚いて理由を尋ねると、彼らはずっとやっていた仕事をパンデミックの間に失ったので、状況が正常化するまで家族を養うために働かなければならないのだと言いました。極度に困難な状態にある人々に仕事を提供することができたことは、私たちのプロジェクト

収穫したサトウキビを製糖工場に出荷する
3月20日、インド、カルナータカ州ビジャプール近郊

を達成できると確信しています。期待した収量が得られなかった主な理由は気候でした。昨年、ビジャプールでは断続的に雨が降りました。その後、この呪われた期間の間に突然気温が上昇し、作物に影響を与えました。大雨で苗木の根が露出したり土から出たりして、その間に雑草が大量に生えてしまい、生育が滞ってしまったのです。私たちは、除草剤を使わない方針でした。しかし、この問題を解決して適切な収量を得るために、今年は除草剤と殺虫剤を使う必要があります。最終的には、農薬を使わずに雑草を制御するためにより良い方法を見つけようとしています。

また電気の問題もあります。露天井戸が2つとポンプ井戸が1つあり、十分な水がありますが、いずれも水を供給するための電力が必要です。プラントへの水の供給に問題がありました。近いうちにソーラーパワーのウォーターポンプを設置して、中断なく電力を供給できるようにします。

子どもたちが水やりに協力

一方で、私たちはサトウキビ栽培を通して、コロナパンデミックの際に職を失った人々に、多くの仕事を提供できたことに満足しています。栽培期間を通して、近隣地区から約10人の熟練労働者が来ました。収穫の維持には、私たちBSVIAのスタッフとコス

トを応援してくれた日本の支援者がいてくれたからだと心から感謝しています。このことはぜひお伝えしたかったことです。

同様に、時々周辺の村から多くの貧しい女性を雇って、彼女らの家族を養うことに少し貢献できました。どんなに小さなことでも、困っている人のためにこれからも全力を尽くします。

継続する勇気の大切さ実感

前述のとおり、この地域でのサトウキビ栽培は初めての試みであり、地域によって土壌の性質が異なるため、サトウキビの専門家からのアドバイスは別として、私たち自身の経験が不足していました。今後は植物に必要な栄養や肥料の種類を知り、土壌改良に取り組みます。

このプロジェクトを支えてくださったすべての方々に心から感謝しております。このプロジェクトを成功させ、コスモニケタンをサポートできるよう、私たちのレベルを最大限に高めていきます。

幸いなことに、私たちの場所から約50km離れた製糖工場にサトウキビをスムーズに供給できました。成功は最終的なものではなく、失敗は致命的ではありません。大切なのは継続する勇気です。

収穫したサトウキビを工場へ輸送する写真をぜひご覧ください。



日本の栄養学ネパールへ生かそう

京都で学ぶ3留学生在が抱負

ネパールの栄養改善のために日本の栄養学の知識を取り入れたいと願い、ネパール人女性ルビーさんとレジマさんが昨春に来日し、日本語習得をめざして京都YMC A専門学校日本語科で学習してきました。さらに今年4月、ビスマさんが加わりました。大学院博士課程で栄養学を研究し、現地風土病の原因となっている微量栄養素の一つヨウ素について学びます。ルビーさん、レジマさんからこの1年の日本での学びについて、また、ビスマさんにこれからの抱負を語ってもらいました。（ルビーさんとレジマさんの文章は、本人が書いた日本語原文通り）

自信を持つてもっとがんばる

バッタライ・ルビーです。日本に来たばかりのころは、さびしくて大変でした。家族と離れて別に住むのは初めてです。学校の勉強は大変ですが、8月から喫茶店でアルバイトを始めました。日本語の勉強の為にその仕事をしています。最初は日本語がぜんぜん話せませんでした、今は日本人の方と日本語で話せるようになりました。学校とアルバイトのおかげでたくさん



左から、タパ・マガール・レジマさん、バッタライ・ルビーさん、1人おいてライ・ビスマさん

日本語が理解できるようになったと思います。

休みの日に京都のいろいろな場所を訪れます。そのことから日本の文化も学ぶことができと思っています。日本の生活になってきました。でも京都の気候にはまだ慣れていません。これからもう1年学校で日本語を勉強して来年、栄養の学校に入りたいです。自信

を持つてもっとがんばります。

世界知りものの見方広がった

タパ・マガール・レジマです。今回を入れて日本に来たのは3回目ですが、学生としては初めてです。最初はとても緊張していましたが、時間が経つにつれてだんだん日本の生活になれてきて、今は気持ちに余裕が出て楽しく学校生活を送っています。自分が育ってきた文化と社会とはちがう環境で生活しているの、今までよりも広く世界を見たり、ものの見方を広げることができました。学校で日本語はもちろん日本の文化も学ぶことができて、とてもうれしいです。学校の勉強以外にも色々なことにチャレンジしています。アルバイトとボランティアです。そのおかげで日本人についてもっと知ることができて、日本人は礼儀正しくて、優しいと思いました。周りの方々が協力的なので、もっとがんばっていきます。

日本語で会話する日が楽しみ

みなさん、こんにちは。ライ・ビスマです。4月から甲子園大学院栄養学研究科博士後期課程に入学しました。日本で勉強して3年間で卒業をめざし

ます。私の研究課題は「軽度〜中程度の過剰ヨウ素長期摂取による哺乳動物の主要代謝と認知機能に及ぼす影響」です。難しいタイトルですが、ネパールの食物からは摂取できない微量栄養素のヨウ素を添加塩によって摂取しており、近年、過剰摂取が人々の健康に大きな影響を与えるようになったため、その問題を解決に導くための研究です。今は慣れない実験の日々です。日本で科学から栄養学をしつかり学び、この研究を通して、ネパールの栄養状況と栄養にまつわる環境の改善と発展に寄与したいと考えています。日本語を、JAFSのボランティアの方や国際交流協会を通じて学び始めました。皆さんと日本語で会話ができるようになりました。これからどうぞよろしく願います。



3人は、日本留学後はJAFSがネパールに創設を検討している栄養学校を通じ、新しい栄養分野づくりに寄与することを目指して学んでいます。今年JAFSは現地での人材育成にも着手し、彼女たちの後輩たちが地域で栄養指導できる人材となるようトリブヴァン大学と共同で事業を行います。今後の3人の日本での学びと栄養事業の展開にご注目ください。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

※3人の栄養士育成は、京都西南ロータリークラブとの共同事業です。

いのちの井戸、結び合う手

花巻北ロータリークラブカンボジアの寄贈地訪問

花巻北ロータリークラブは、岩手県花巻市でさまざまな社会貢献活動を行っています。中心メンバー4人（佐藤淑憲さん、佐賀忠臣さん、高橋智彦さん、藤田甲之助さん）が2月24日、井戸寄贈地のカンボジアを訪れ、村の水と衛生環境や、井戸によって改善され

た生活について視察し、村人と交流しました。

まずは2020年に寄贈した2基目の井戸。タケオ州ロネアム地区ソフィ村では、遠い日本から来る寄贈者を、皆が心待ちにしていました。木陰に椅子とござが準備され、井戸の完成式が

行われました。お坊さんが最初に祈りを捧げます。「日本から贈られた井戸から良い水がたくさん湧き出ますように、村人皆が健やかに過ごせますように、日本からのゲストが安全な旅をされますように」。壺に入れた井戸の水を、さらに日本の榊のような葉につけ、参列者にかけます。

次は村長からのメッセージです。井戸ができる前の村の生活、井戸ができていかに生活が助かっているか、水がとてども澄んでいて、とてもおいしく、子どもたちが病気になることがなくなったことが、感謝状とともに伝えられました。女性たちは感謝の気持ちとして、手作りのかごに入れたパームシユガーを、子どもたちは村に咲く花を花束にして贈ってくれました。

ロータリークラブの佐藤会長が、温かく迎えてくれたことへの感謝を述べて、日本も戦後同じように苦しい時期

を過ごしたことを紹介し、村人皆で力を合わせて村をより良くしていったほしいとのメッセージを伝えました。さらに折り紙を通じて子どもたちと交流し、学校へ文具を贈りました。

今年度計画している3基目の寄贈井戸の建設予定地も訪問し、村の状況を確認しました。村人からは「コロナで収入が減ったりなくなったりして更に生活に困窮している」、「建材が買えずコロナ前から家の建設が全く進まない」、「父親が亡くなり母親が町に働きに出てもうずっと帰って来れていない」、「子どもを上の学校に進学させられず、働き手にせざるを得ない」など、切実な声が寄せられました。

最後に同地区タマダ村を訪れ、19年に贈った1基目の井戸を視察しました。寄贈当時は周りにはわずかな家が建っているだけでしたが、今はすぐ近くに食堂や売店、美容院が作られ、村のにぎわいの場となっていました。井戸にも工夫が凝らされ、ポンプでいったん水をくみ上げて使いやすくなっていました。ロータリークラブの一行は大きな変化を驚き喜んでいました。

移動中にいくつかのため池がありました。乾季で大きく水位が下がっていました。中には水たまりぐらいの大きさしかないものもあり、35度を超える気温の中、水の必要性を改めて認識する訪問となりました。

（JAFSスタッフ 岡本佳子）



井戸の完成式の後、子どもたちと折り紙をして交流。2月24日、カンボジア、タケオ州ロネアム地区ソフィ村

水を他人からもらわず自前で

地域には村人が自由に使える井戸がなく、村人は約1km離れた隣村の井戸まで水をくみに行っていました。くみに行けない家庭は、近所の人に水を分けてもらっていました。しかし毎日は頼めないので、フェンスを越えて私有地に忍んで入り、そこにある井戸から水をくもうとする村人もいました。有刺鉄線に阻まれてけがをしたり、捕まってしまうなどの危険性があり、心配な状況が続いていました。井戸ができて安全な水を得ることが可能になり、毎日の不安が解消しました。



ヌエバエシハ州リャネラ町ブラリデル村
受益者…15世帯50人
井戸の形式…ポンプ式（深さ30m）

【寄贈者】京セラ労働組合様

【寄贈者】京セラ労働組合様

ヌエバエシハ州リャネラ町バグンバヤン村
受益者…22世帯95人
井戸の形式…ポンプ式（深さ30m）



安全な水を十分に得られる

この集落は町からのアクセスが非常に悪いので開発から取り残され、今でも送電線が通っていない家庭が多くあります。村人にとって電気が使えないことも大きな問題ですが、何よりも安全な飲料水を得ることが最優先事項であったため、井戸を建設することとなりました。村で安全な水を得ることが可能になりました。村人たちは、今まで十分な水を得ることができず、日々水の確保に奔走しなければならなかった生活から、大きく変わったことをとても喜んでいます。

虫が入った色と臭い付きの水から解放

集落には深さ7mの浅井戸が1基ありましたが、洪水時は生活排水が流れ込んで汚染されていました。水量が少なく、くみ上げると虫がたくさん含まれていることもあり、飲料には適しませんでした。布で濾して煮沸して飲むようにしていましたが、茶色い色や臭いを取り除くことはできません。他の社会的インフラも整っておらず、その中でも水源が限られていたので、非常に不衛生な状況にありました。この度、地域に井戸を得たことで、安全な水を得ることが可能になりました。



ヌエバエシハ州サンレオナルド市デイバージョ
ン村 受益者…30世帯90人
井戸の形式…ポンプ式（深さ24m）

【寄贈者】京セラ労働組合様

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

いのち
生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（2018年4月現在）

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円（パイプライン=25～150万円）
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで
井戸ができた村

農薬含む水路から安全な井戸水へ

村から約800m離れたところに私有の浅井戸があり、持ち主の好意で村人たちが水を分けてもらうことができていました。しかし、土地が売却され所有者が変わり、閉鎖されて立ち入りできなくなってしまいました。他に井戸のないこの村では、灌漑用の水路から水を得ていますが、田んぼの農薬が含まれては安全とは言えず、煮沸しても、体調をこわす人が多くいました。市販の水を購入すると、価格が収入を大きく超えます。井戸の寄贈により村人たちは水問題から解放されました。



ヌエバエシハ州リャネラ町サンフェリペ村
受益者…30世帯142人
井戸の形式…ポンプ式（深さ30m）

【寄贈者】京セラ労働組合様

【寄贈者】京セラ労働組合様

ヌエバエシハ州ハエン市マグサリシ村
受益者…25世帯90人
井戸の形式…ポンプ式（深さ37m）



衛生的な飲み水と生活用水

村には井戸がなかったため、村人は3km離れた隣村の水源まで水をくみに行かざるを得ませんでした。バケツやタライを持って歩いて水くみに行く毎日で、遠く大変な道のりでしたが、村には川も灌漑用の水路もないため、生活用水も得ることができませんでした。日々の生活を衛生的に保つことができず、村人の健康が守れない状況にありました。しかし、井戸ができたおかげで、やっと安全な水を得ることが可能になり、生活環境が改善しました。

そばに水が 【寄贈者】 Glocal Network Shanti(関西学院千里国際高等部) 様

子どもが生まれる度に、水が原因で下痢をしないかいつも心配でした。また農繁期には水くみに家族が行けないので、乳児を背負って水くみに1日3～4回行っていました。一番大変なのは雨季です。赤土が多い山道は、乳児と水がめを背負っていると、転びそうになることがしばしばでしたが、その心配もなくなりました。これからは家で水をくむことができます。子どもたちにも安全な水を飲ませることができます。安心して使える水がそばにあることは、喜びに堪えません。



バグマティ州シンドウバルチョーク郡ボテシバ村
ダダガウン・レイリー集落 受益者…6世帯
井戸形式…水道パイプライン・水場6力所

【寄贈者】菅原直樹 様

家の近くで水がくめる夢が現実に

水をくみに行かなくても家のすぐ近くで水がくめる——夢のようなことが現実になりました。特に、このたび井戸が設置されたうち2世帯は子どもが多く、きれいな水を得ることができないときには、子どもたちが頻繁におなかをこわしていました。これからは水の管理もきちんとされるので、安心して飲ませることができます。大切にこの給水場を使っていきます。ご支援ありがとうございます。ぜひ、私たちの地域をご訪問ください。一同でお待ちしています。



バグマティ州シンドウバルチョーク郡ボテシバ村
レイリー集落 受益者…6世帯
井戸の形式…水道パイプライン・水場6力所

【寄贈者】(株)クレコスにこにこ基金様



服の繕いや野菜栽培できる

ご支援により、私たち女性の毎日が大きく変化しました。これまでは水くみが最優先の仕事でした。子どもの服がほろびていても、水くみと畑仕事や家事をすると疲れて縫ってあげる力がなく、そのまま着させることがしばしばでした。家庭菜園の充実を願っても、水がないのでできませんでした。今はすぐに水をくめて、家も清潔に保てるようになりました。水くみをしなくて済むようになった時間で、もっと家族の健康のためにいろいろな野菜を栽培していきたいです。

バグマティ州シンドウバルチョーク郡ボテシバ村
マチロガウン集落 受益者…7世帯
井戸の形式…水道パイプライン・水場7力所

踊り出すほどうれしい水道

水道の設置が決まった時には、踊り出すぐらいに大変うれしかったです。私たちは、日々の水を得るために、長年大変な苦勞をしてきましたが、これからは自分たちの家のそばで水をくむことができます。これまで、天気が悪くても体調が悪くても子どもが泣いていても、1時間近く歩いた場所にある水源地まで水くみに行く必要がありましたが、これからはその心配がなくなり、おかげさまで気持ちが軽くなりました。

ご支援に感謝申し上げます。

バグマティ州シンドウバルチョーク郡ボテシバ村
マチロガウン集落 受益者…6世帯
井戸の形式…水道パイプライン・水場6力所



【寄贈者】(株)国元商会様

家で水くめる誇らしい地域 【寄贈者】 OSGコーポレーション青樹会 様

各家庭で水をくめるようになり、皆が笑顔で日々暮らせるようになりました。ご支援誠にありがとうございます。子どもたちは水くみから解放され、誇らしい地域になったと喜んでいます。ここは乾燥地で水源も少なく、乾季には2時間以上歩いて水くみすることもありましたが、これからは安全に管理された水を家の前でくむことができるのです。私たちの生活に大きな灯がともりました。これからこの水道を大切に、力を合わせて住みよい地域にしていきたいと考えています。



バグマティ州シンドウバルチョーク郡ボテシバ村
マチロガウン集落 受益者…10世帯
井戸形式…水道パイプライン・水場10力所

【寄贈者】松並淳様



高齢者の生活が好転

高齢者が多く、水くみが年々辛くなってきていました。山にある私たちの地域は、水くみに昇り降りが必要です。水源地まで行っていたときは、腰が痛くなって水くみできず、わずかな水で我慢しなければならぬことも度々ありました。大変でしたが、それが当たり前でした。水くみに行かなくて済むようになり、生活は劇的に好転しました。水の心配をしなくても良い生活がくるなど考えてもいませんでしたが、今は目の前で水が出ています。ご支援に対して感謝で一杯です。

バグマティ州シンドウバルチョーク郡ボテシバ村
マチロガウン集落 受益者…12世帯
井戸の形式…水道パイプライン・水場12力所



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ裏表紙にアドレス、連絡先

アコーディオン + 沖縄三線 ＝ コスモニケタン支援

インドのコスモニケタン学園支援のためのチャリティコンサートを4月22日、大阪府高槻市のクロスパル高槻で開催しました。プロで活動されている「ちゃんぶるーしゃんぶる」に来ていただきました。写真。アコーディオンと沖縄三線の演奏と素晴らしい癒しの歌声でした。みんなで楽しく踊りながら、会場はまるで沖縄。大いに盛り上がりしました。

AFS国際事務局長でフィリピンから来日中のジーナ・ヤップさんは、AFSネットワークや、チャリティの大

「物価上がり食べられぬ」 トルコの地震被災地



住居の解体作業を呆然と見る日々が続いている。4月12日、ディヤルバクル県

で海外からの投資が止まったことや、難民流入が原因です。地震で仕事もできない混乱状態にあるアディヤマン、ディヤルバクル、ハタ

イ、マディナ、マラティの5県では、避難生活の中、食べることも困難な人たちが増えています。最大の被災地であるハタイに支援が集中しており、他の県の人たちが取り残されがちになっていることが気になっています。

トルコに心をお寄せくださり、ありがとうございます。

5月下旬現在、家を失くした被災者のほとんどが、ようやくテントやコンテナの仮住まいを得て、野外での暮らしから脱することができました。

しかし、物価が高騰し、以前は月2千〜3千トルコリラ（以後リ）だった家賃が1万リラ（約7万円）になっています。イスタンブールの人たちの月平均給与は1万リラです。食べ物や生活物資もすべて高騰しています。政治不安

イ、マディナ、マラティの5県では、避難生活の中、食べることも困難な人たちが増えています。最大の被災地であるハタイに支援が集中しており、他の県の人たちが取り残されがちになっていることが気になっています。

ユスフさん（60歳、アディヤマン県）5人家族です。家が倒壊し、西方のイズミルに一時避難していましたが、生活が成り立たず、アディヤマンに戻ってきました。コンテナで家族と生活しています。依然仕事がなく、体が弱いので肉体的労働もできず、日々の食事を心配しながら過ごしています。

国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ裏表紙にアドレス、連絡先

めれば、家族を危険から守ることができそうです。現在仕事がなく、自力でコン

障がい者支えエコブリック作り フィリピン

フィリピン、アンティケ州パンダンの障がい者協会は、廃プラスチックをレンガ状に固めるエコブリック作りをしています。地域をきれいにし、障がい者の生計を立てる狙いです。コロナ禍で長い間集まれませんでしたが、このほど作業所が完成し、活動の様子を見せてもらいました。写真。

回収したプラスチックに強度を補う材料を加えて試作品を作ります。学校や役所などへの販路も開拓中で、役所からは、今後計画される建物に使用したいとの期待も寄せられています。強度と安全性を高めて早く販売できるよ



テナを購入できません。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

う、一生懸命取り組んでいました。

同国の農漁村部ではごみの回収処理システムが確立されていません。増え続けるごみは大きな環境問題です。学校を卒業した障がい者が働ける場も、町にはありませんでした。

私は、オージス総研さんから寄贈いただいた中古パソコンを届けました。オンライン化が進み、パンダンにないがらでできる仕事が増えました。障がい者にとつて、パソコンを使えることは大きな強みになります。まず協会で使い方を教えています。貸し出しの希望も増えています。

私とパンダンとの出会いは1995年の水道パイプラインのワークキャンプ。電機連合労働組合の担当部署に配属され、「現地の人々と協働する」という内容に惹かれて参加しました。多くの人と出会い、忘れられぬ体験となりました。それから再三訪れ、交流を重ねています。今年はパンダン水道局の25周年。現地の人が私につけてくれた名前「ミスター・マロンパティ（水源地の名）」に負けないよう、これからも取り組みたいと願っています。

（JAFS会員 中谷誠）

園の収入源であるサトウキビも無事に収穫でき、今後の自立運営に期待が持てます。これからも、JAFS高槻として応援していきたいと思っています。

素晴らしい演奏をしてくれた、ちゃんぶるーしゃんぶるさんのHP（<https://chanpu-chambre.com/>）もどうぞよろしく願っています。

（JAFS高槻会長 伊藤エリサ）

「雛めぐり」して春とコロナ明けを実感

コロナの影響で中止されていた大阪府富田林市寺内町の「じないまち雛めぐり」が3月11・12両日、3年ぶりに

復活しました。当地区会も地域文化に触れる機会として3月12日に見学会行事を企画しました。

寺内町は室町時代から続く古い町です。「雛めぐり」は、地域内の旧家に伝わる「雛人形」をはじめ各家自慢の雛人形を飾る町おこし行事です。

当日は大阪市内からの参加もあり、9人で街を散策しました。富田林駅を降りて少し歩くとタイムスリップしたような寺内町地区に入ります。コロナの影響で一部の家のみで、また土間からの見学となりました。古いお家の人形は今のものほど大きくはないですが、それぞれ気品と味わいを感じさせてくれました。カメラにたくさんのお雛人形を収めました。コロナ明けと、春の訪れを感じる1日でした。

（JAFS理事・富田林地区会会長

渡辺 治彦）

草原の国キルギスを身近に



70万人です。草原の国でステップ気候に属しますが、天山山脈の北側にあって水資源は豊富で、琵琶湖のような大きなイシクル湖があります。1991年の独立後いち早く民主化し、大統領制で一院制議會の国です。農畜産業が主ですが、世界屈指の金鉱山があります。公用語はトルコ語系のキルギス語。ロシア語も通用します。宗教はイスラム教スンニ派が大部分です。

関西に住むアジア各地の方から現地のトピックを聞く「アジアの仲間座談会」の第3回が4月15日に開かれました。今回の講師は中央アジアのキルギスから来日中のスジャロン・カリナさん。右写真。会場のJAFS会議室は25人が参加して満席でした。

カリナさんはキルギス首都のビシユケク大学と大学院を修了して来日。北海道教育大学と筑波大学で学ばれました。現在は大阪市に住み、日本の会社に就職しています。

キルギスは大変な親日国だそうです。面積は日本の約半分、人口は約6

カリナさんによるとキルギスには女性を誘拐して結婚するアラカチュ

ー(Ma Kachuu)という不思議な慣習があります。合意のない暴力的なケースが増えており、女性の人権侵害として国際的に問題視されています。敵の一掃と部族繁栄のために他の部族から結婚できる女性をさらうという、古代キルギスの慣習に基づくようです。

遊牧文化の国・キルギスの料理は何といっても肉が主体で、豚肉以外の羊肉、馬肉、牛肉が好まれます。代表的な「ベシユバルマック」は人々が遊牧生活を送っていた時代の香りを残し、結婚式など祝いの席に欠かせない一皿だそうです。いくつかの料理は日本料

理に似て、「ラグマン」はうどんや焼きそばに近く、「マンティ」は肉まんのようなです。全般に濃い味とのことです。大いに食欲をそそられました。講演後も活発な討論が和気あいあいと続き、遠い国キルギスが身近に感じられたひとときでした。

（JAFS会員 大仁孝太郎）

ネパールをテーマに講演と音楽ライブ

大阪府のJAFS枚方・寝屋川両地区会共催のチャリティサロンが5月28日、枚方市立楽寿荘で開かれ、50人余りが集いました。

第1部は「アジアにおけるJAFSの役割と今後のめざす活動」の報告と講演。JAFSスタッフの熱田典子



さんがネパールでの例をあげて「いのちの水 うるおう未来」に込めた思いを語りました。

第2部はミュージックライブ。清水利香さんのサククスと恩田貴則さんのピアノのデュオ。写真。ジャズや昔懐かしい日本のメロディーさまざまな演奏が続きました。演奏の合間に清水さんが語るネパールへの思い、軽やかで力強い恩田さんのピアノに、参加者たちは魅了されました。

手作りのケーキとチャイをいただきながらの交流会には2人の演奏者も入り、アットホームな雰囲気の中、JAFSの活動の意義を参加者を感じていただく機会となりました。

（枚方地区世話人 船戸康夫）

海へ流れ込むプラごみを川で確認

アースデイ（地球の日）の4月22日、海洋プラごみクリーン活動にJAFSがアジアと連携して取り組んでいる「ブルーオーシャン作戦」のミニ版をしました。大阪で、ごみが出る生活

域に近い淀川でクリーン活動し、東京や西表島とオンライン交流しました。

河口から15km上流の守口市の河川敷を3kmにわたり歩きました。川岸の大部分が柵で仕切られ「あぶない」の看

板があって入れませんが、水際まで近づける箇所。写真。ではペットボトルなどの漂着プラごみを拾いました。プラごみが多くあり、川から海へ流れ込むんだと実感しました。

バリ島からはアースデイにちなんだ環境保全活動として、棚田の小川に稚魚を放流したとの報告がありました。

フィリピンから来日中だったAFSソルソゴンのジーナ・ヤップさんが、淀川での活動に参加してくれました。

川がきちんと管理されているのに驚き「堤防で川と家が隔てられ、河川敷と川岸も看板と柵で仕切られて近づけない。川沿いは生活の場でなく、レクリエーションの場となっている。フィリピンでは川べりまで家があるので、そこに住む人々が捨ててしまったごみが川に入ってしまう」と言っていました。ごみ散乱は河川管理の違いにも一因があると気付かされました。

西表島でマングローブ植林とプラごみ拾い活動をする団体が、ブルーオーシャン作戦に関心を持ってくれ、新たな連携に向けてオンラインで顔合わせしました。バリ島と西表島は、マングローブ林のある小さな島で観光が主産業という似た点があります。今後の情報交換や意見交流が楽しみです。

（JAFSスタッフ 川本裕子）

こどもフェスに3年ぶり出店



コロナ禍で中止されていた兵庫県宝塚市の中山寺こどもフェスティバルが5月5日、3年ぶりに再開され、JAFSも出店しました。写真。久しぶりなので以前のようにスムーズにできるか不安もありましたが、当日は晴天に恵まれ、多くの子どもたちが来てくれました。私たちも、大ハッスルでできました。うどん・綿菓子・たこせん・ヨーヨー・飲み物。どれもあつという間に行列ができ、てんやわんやの忙しさでした。

役割分担もうまくされていて、一人ひとりが生き生き活動している姿が輝いていました。「ボランティアに定年

● 投稿規定 ●

本欄では、国内各地のJAFS会員の皆さんの活動ぶりを紹介しています。誰が、いつ、どこで、どのような趣旨で、どんなことをしたか、などをかみくだいて分かりやすく書き、筆者名を添えて、「JAFSプラザに掲載希望」と明記し、メール、郵便、ファクスなどで事務局へお送りください。写真付きを歓迎します。原稿をさらに推敲・編集したうえで掲載させていただきます。

はない！」を実感した一日でした。朝早くから夕方まで長時間にわたり動いていたのは全員が後期高齢者でした。元気はつらつな姿を見て、私も今年の誕生日で後期高齢者の仲間入りをしますが、まだまだ動けることを再認識しました。いつでも、どこでも、自分のできることを楽しみながら活動していたらいいなと思いました。

（JAFS会員 天野澄子）

「ウェルカム」も3年ぶりに開催

コロナ禍で中断していたJAFS新入会員ウェルカムパーティーを4月8日、地区会長会に併せて3年ぶりに開きました。昨年度までに入会した約100人のうち12人が参加しました。

米田明正委員長の歓迎あいさつの後、恒例の新会員のあいさつ。いつも以上にパワフルな方が多く、時間をたっぷり使って入会の思いや活動への期待を披露してくれました。

第二部では中国・新疆ウイグル自治区出身の会員ジャミラさんが舞踊と思いの歌を披露。中央アジアのエキゾチックなサウンドと風を感じました。懇親会は少し豪華なパーティー形式。地区会長会メンバーと一緒に40人余りでJAFSの未来を語り合いました。

（会員拡大・地域広報活動委員会 担当理事 渡辺治彦）

2022年の活動報告 みなさまのお力で 達成できました

さらに各国から▶ 要請が来ています 2023年の支援事業

2022年度は、アジアへの支援活動の継続の必要性がさらに増す中、新型コロナウイルス感染症による影響や制限が続きました。国内での普及啓発活動も、事業計画通りに行う困難さを背負いながら、可能な範囲で実施しま

した。国内外含め、各事業種ごとに工夫して活動しました。2023年度も様々な支援要請が来ています。アジアの人々と連携し、貧しい人々の経済的自立に向け取り組み続けます。

水事業

井戸・パイプライン計43基

2022年度はアジア5カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、フィリピン）の農村27カ所に、飲料水の井戸およびパイプライン計43基を完成することができました。

遠方への水くみを強いられていた人々の生活を改善でき、コロナなど感染症予防のための衛生環境改善にもつながりました。

これによりアジア各地に贈った井戸は、累計2254基となりました。

◀インド・カルナータカ州ビジャプール県にできた井戸



農村所得向上、障がい者支援

貧困対策事業

2022年度の小規模産業育成・職業訓練事業は次のようでした。

インド・マハラシュトラ州アムラワティ県の女性グループの養鶏事業は、コロナの影響により実施できませんでした。



生理用布ナプキン普及のため、作製講習会を開催（ネパール）

カンボジア・タケオ州の農村世帯の所得向上を目指した小規模零細事業への資金提供は、コロナの影響により実施できませんでした。

ネパールではシンドウパルチョーク郡インドラワティ村の継続的な農業振興に向け、人材育成のために、村の若者1名に農業専門高等学校への奨学金を支援しました。また馬を活用する自然農法循環型農業をモデル事業として始めました。

フィリピン・ソルソゴン州では農漁村の所得向上を目指し、漁場づくりのために植林したマングローブ林の整備や育苗をしました。また農村地域の生活困窮者の収入向上のためには、有機肥料による土壌改良や、養殖池の設置、実習農園など研修拠点の整備を行いました。

フィリピン・アンティーク州パンダン町の障がい者

植林・清掃・バイオガスで地球を守る

環境事業

アジア4カ国において、地域の森林減少の歯止めや農業環境整備などのために1万497本の植林をしました。農村の持続可能な生計につながりました。

ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村で、緑化および地域産業づくりのためにコーヒーを栽培。日陰樹1000本とコーヒー苗2000本の植樹、コーヒー苗1万床の育苗、および日本人専門家による研修をしました（「緑の募金」公募事業）。

グリーンスカウト運動

1986年に発足したグリーンスカウト運動（環境保全市民運動）は、3カ国の現地提携団体が、様々な地球環境保全活動をしました。

ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村では、環境ジュニアリーダーと地域リーダーがごみ分別講習を受け、焼却炉兼ごみ箱を40カ所に設置しました（りそなアジア・オセアニア財団助成）。また3カ村4校にて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動、地域や学校の清掃美化活動、植林を行いました。

フィリピンでは、アンティーク州シバロン市で環境学習や清掃活動をしました。ソルソゴン州マトノック町では、有機ごみ活用による堆肥生産、ごみ箱41カ所設置と環境学習や清掃をしました（TOTO水環境基金助成）。

スリランカでは、学校を拠点に環境学習や清掃活動に取り組みました。

再生可能エネルギー推進

ネパールでは森林破壊の歯止めと薪の代替燃料のため、牛糞発酵バイオガスを普及しました。シンドウパルチョーク郡の15世帯に各1基のバイオガスプラントを設置し、薪の年間使用量を38トン削減、二酸化炭素排出を年間100トン抑えました（りそなアジア・オセアニア財団助成）。

保健衛生と医療を支援

インド・マハラシュトラ州ムスカ村の病院に対し、看護師1名の常駐、医師1名の週1回派遣により、定期診療できる体制を整えました。また住民が常に診療を受けることができるよう運営を支援しました。

ネパール・シンドウパルチョーク郡の農村女性を対象に、健康維持のために生理用布ナプキンの活用を薦め、地元で布ナプキンを製作し普及を目指すため、女性15名に講習しました。

運営管理



社会から信頼される組織であるために、組織と事業の透明性についての自己診断「アカウ

ンタビリティ・セルフチェック（AS C）2021」（国際協力NGOセンター提供の診断ツール）を3月に実施して規程や運営のあり方を確認し、右記マーク発行の承認を受けました。



グリーンスカウト運動の啓発プログラム（スリランカ）

バングラデシュのボリシャル県・ガジプール県・ネトロコナ県・ジャマルプール県の計4校で、学校周辺の緑化と環境教育のため、ジャックフルーツ3347本を植林しました（連合・愛のカンパ中央助成）。

フィリピン・アンティーク州パンダン町で、水源の森保全のための苗木づくりと1200本の植林をしました。

スリランカでは、ラトナプラ県の2地区にて果樹など200本を植林し、青少年が育成に携わりました。

2023年度 水 事業計画			
国	提携団体	実施地域	内容【必要資金(円)】
インド	RUDYA / HDSI / GSS / BSVIA	マハラシュトラ州、タミルナドゥ州	井戸建設【1基60万×5基】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンボントム州	井戸建設【1基28万×15基】
スリランカ	SARVODAYA	全域	井戸建設【1基22万×10基】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ州、ガンダギ州	井戸・パイプライン建設【井戸1基17万×5基・パイプライン1設備17～120万×20設備】
バングラデシュ	BDP	ネトロコーナ県、ガジプール県、ボリシャル県、ジャマルプール県	井戸建設【1基55万×4基】
フィリピン	KALIPI / AFS-Sorsogon	全域／ソルソゴン州	井戸・パイプライン建設【1基33万×12基】
2023年度 貧困対策 事業計画			
国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	HDSI	マハラシュトラ州	村の女性の雇用促進を目的とした縫製職業訓練【120万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	ムスカ村唯一の診療所において、住民のために医療基盤体制を強化し、運営を継続するための支援をする【600万】
スリランカ	SARVODAYA	バドゥッラ県	内戦・コロナ・経済危機で深刻な貧困状況にある女性世帯主への職業訓練や機材支援など、女性の経済的・社会的地位向上【250万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ州	山間農村の保健衛生向上、産婦人科充実の支援と、性に関する女性の意識向上や布ナプキン普及による女性の保健状況改善【15万】
		バグマティ州、ガンダギ州	農家の自立促進・農業発展のための家畜飼育促進。農業の担い手育成のための農業専修高校・農業大学への奨学支援【90万】
カンボジア	KAFS	タケオ州	農村の所得向上・貧困緩和のため、小規模零細事業の支援【24万】
フィリピン	AFS-Pandan	アンティーケ州	障がい児童が勉強して将来自立できるよう、パンダン障がい者協会を通して通学や職業訓練などを支援【50万】
	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	農漁業で生計を立てる貧困層の人々のために、有機農業の推進やマングローブの植林を行う【40万】
2023年度 環境 事業計画			
国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ州、ガンダギ州	森林伐採が進む中、コーヒー植林のための苗木づくり、圃場整備のための高木植林活動、および森林保全推進活動【180万】
			ごみ対策活動や環境セミナーによる地域環境保全活動の推進を支援【50万】
			燃料を薪に頼り森林破壊が深刻なため、家畜牛の糞を発酵し、生活燃料にするためのバイオガスプラント設置を支援【60万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県	学校内に、環境保全と生活のために植樹し、環境と生活に関する知識向上を図る【40万】
フィリピン	AFS-Philippine	ヌエバエシハ州、アンティーケ州	焼畑や伐採が土砂崩れの原因となっているため、水源林や、川の土手を保持する竹林を、植林再生【50万】
	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	ごみ分別・リサイクル、堆肥化促進による生活環境・水環境の改善と環境教育。堆肥で野菜を栽培し暮らしを支える【320万】
スリランカ	SARVODAYA	アンパーラ県	伐採による森林減少と乾燥地域拡大に対し、森林保全および生活のためのコミュニティフォレスト作りと環境教育【40万】
インドネシア	AFS-Dhyana Pura	バリ島	海洋や生活環境を汚染する散乱プラごみをマングローブ林や陸で回収するクリーン活動と植林、および環境教育【100万】

5カ国の里子265人に教育支援 子ども 事業

アジア里親の会（教育里親制度）により、アジア5カ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の生徒265名に対して教育資金を支援しました。コロナによる休校措置の解除時期は国・地域により差がありましたが、休校の影響で落第



老朽化したトイレを再建した小学校での衛生教育（バングラデシュ）



高槻第2中学校の文具プレゼントにお礼メッセージで交流（ネパール）



ストリートチルドレンへの学用品配布など教育支援（フィリピン）

イガル県とナマカル県で、HIV／AIDSに感染した子どもと家族2世帯の生活と教育を支援しました。

ネパールで栄養改善

ネパール・ピトゥリ村の低所得地域の小学生150名に、卵と牛乳の給食を支援し、子どもたちの栄養状況を改善しました。また栄養士育成のためのネパール人対象者2名が来日し、日本語学校で学習しました。さらに1名が次年度から日本の大学院に留学し栄養学を学ぶことが決定しました。

スラムの子どもたち

インド・マハラシュトラ州ナグプールのスラムの子どもたち30名に、学習補講を行いました。フィリピン・マニラ市内のストリートやスラム、また郊外移住地に暮らす子どもたち96名への教育支援とともに、生活習慣・衛生環境改善などの啓発プログラムを実施しました。

ワークキャンプとプロジェクト視察

ワークキャンプはコロナにより全て中止しました。コロナ後の活動に向けて、各関係団体と相談会を実施しました。プロジェクト視察は、ネパール5回、インド1回、カンボジア1回行いました。

罹災者支援 事業



台風被災世帯への食事提供のためにつくられた学校の農園
(フィリピン)

緊急支援が必要な災害が起きた際、迅速に初動対応（初動調査含）ができる資金を確保するために、緊急支援対応基金を設立しました。

ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村において、2019年度から3年間かけて完成した揚水システムを用い、世帯ごとの給水設備を

182世帯に設置しました。

またネパール同村において、2015年の地震の震源地にも近く主要道路から隔絶された地域で、自然災害で孤立した際にも自立できるための「シンドウパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業」を、R4年度日本NGO連携無償資金協力と

震災・台風・コロナからの復興支援

の共同により開始しました。

フィリピンでは、21年度の大規模台風ライの被災地であるバナイ島アンティケ州の南側、海沿いの地域を対象に、引き続き支援物資の配布や、倒壊家屋50世帯の復旧・補強、再建支援を行いました。また22年10月の

大型台風パエンの被災地であるバナイ島アンティケ州の西側の被災者に対し、被災直後は食料品などの緊急支援物資配布を約550世帯へ、その後は学校での食事提供や学用品支援を約300名に、倒壊家屋の修繕や建材支援を約100世帯に行いました。

コロナ支援として、3カ国3提携団体を通じて、十分な収入を得ることができない生活困窮者と、休校再開後の運営が困難な学校を支援しました。

ウクライナにおいては、爆撃で一部機能を失ったスームイ州トロスタネツカ市立病院の外科機能を取り戻し、負傷者が手当て・治療・リハビリテーションを受け回復できるよう整える支援活動「スームイ州トロスタネツカ市立病院の外科エリア再建支援」と市民の越冬のための防寒着支援事業」を、R4年度日本NGO連携無償資金協力との共同により開始しました。

また国内でのウクライナ支援として、ウクライナから大阪に避難してきた人々への生活資金の支援、生活物資頒布会の実施、米や日用消耗品支援など、異国での生活が長引く中で心の安定の一助になることを願って活動しました。

ウクライナから日本に避難した人々への生活物資頒布会



2023年度 子ども 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	SSH	タミルナードゥ州	HIV/AIDSの影響下にいる家族の生活向上支援【21万】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の子どもの就学や育成を支援するチャイルドアカデミーの運営を、給食・教材面などで支援【20万】
ネパール	AFS-Nepal	ガンダギ州、バグマティ州	地震後の安全基準に則って老朽化校舎を再建する支援、新教育指針に沿ったパソコンなど学校整備支援【100万】
		日本	ネパールの栄養指導人材育成のため、ネパール人の日本留学支援【150万】
バングラデシュ	BDP	ネトロコーナ県、ジャマルプール県	小学校5校のトイレが老朽化し不衛生なため、感染症を予防すべくトイレを再建【50万】
フィリピン	ASI	マニラ市、カビテ州	路上やスラムで暮らす子どもが貧困の連鎖から抜け出すための教育支援と栄養改善、保護者の教育・職業訓練【50万】

2023年度 子ども 事業 アジア里親の会 計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【新規要支援里子数】
インド	RUDYA	マハラシュトラ州	少数民族の子が通う日印友好学園パダトラ小学校の教職員給与など運営支援。書籍・設備拡充を支援【48人】
	BSVIA	カルナータカ州	農村地域の教育モデルとなる日印友好学園コスモニケタンの運営支援と学習環境の整備【45人】
	SSH	タミルナードゥ州	貧困層およびHIV/AID感染の家庭の子どもが就学できるよう、制服・教科書代、学校運営費などを支援【7人】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の子どもの就学継続のための啓発活動と、給食や学用品・就学費の支援【11人】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンボンチュナン州	農村の子どもが1人でも多く学校に通えるよう、教科書・学用品および課外活動や学校運営の支援【11人】
ネパール	AFS-Nepal	ガンダギ州、バグマティ州	農村貧困層の子どもが1人でも多く高校まで通えるよう、就学費や学校運営費などを支援【20人】
バングラデシュ	BDP	ガジプール県、ジャマルプール県	1人でも多くの子どもが高校まで通えるよう、学校運営費と就学費を支援【28人】
フィリピン	ASI	カビテ州、マニラ市	路上から新たな地に移住した子どもの教育支援と、家族への教育・栄養改善・職業訓練・収入確保を支援【5人】

2023年度 罹災者支援 事業計画

国	プロジェクト	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	ネパール中部地震災害復興支援	シンドウパルチョーク郡	2015年の地震被災地の復興と持続可能な地域づくりを目指し、実施済みの「水と農業の基盤づくり」を地域に定着する活動【100万】
	防災事業		主要道路から隔絶された農村型自治体において、自然災害により孤立した際にも、防災力の高い自立した地域となる支援【4800万】
ウクライナ	ウクライナ支援	スームイ州トロスタネツカ市	ロシアによる攻撃を受けた市立病院の外科機能修復、治療のためのリハビリテーション、地域住民への防寒具配布【4450万】
トルコ	地震被災地支援	カフラマンマラシュ地域	2023年2月に発生したトルコ南東部地震により被災した貧困層の人々の生活を守るための支援【200万】
共通	災害および緊急対応	共通	災害発生時の初動活動に向けて、迅速に対応できる体制づくりのための資金確保、人材育成、チームづくり【50万】

第30回アジア国際ネットワークセミナーのスリランカ開催を予定していましたが、コロナのため中止しました。代わりに10月にAFSネットワークの10カ国57名が参加してオンライン会議を行い、コロナ下における各国提携団体の近況報告と情報交換を行いました。

ト「地域を良くするプロジェクトを創ろうーコロナ禍で私たちにできること」の高校生企画事業について、その後の実施状況を確認し、アジア各地の高校生たちがコロナの制限の中、可能な形で活躍していることが分かりました。

アジア草の根の自立・連帯基金である「アジア・フレンドシップ夢基金」は世話人会が募金に協力しました。

スタディツアー中止

コロナの影響により実施しませんでした。

職員研修と奨学金支援

本会のネットワークを将来担うアジア各国提携団体の職員の研修・育成のため、奨学金支援を例年行っています。派遣先であるフィリピンのアジア社会科学院（ASI）の地域開発コースが、コロナ禍のためオンライン開催されましたが、対象者がおらず奨学金支援は行いませんでした。インド提携団体HDSIの後継者1名に対しては、パラティヴィディアピート大学院社会開発修士課程1年目の奨学金支援をしました。

海外ボランティア研修制度については、コロナにより募集をしませんでした。

オンラインでアジアと連帯



AFSネットワーク10カ国のオンライン会議を10月に開催

国内での普及啓発事業

アジア理解促進とチャリティ活動

国内のコロナ感染状況に伴い引き続き活動を制限せざるを得ない時期もありましたが、対面形式のイベントや活動を再開するための工夫や努力、またオンライン活用により臨場感を感じられる工夫をしたイベント開催など、本会の広報と支援活動の普及啓発が徐々に実施できました。また多文化共生社会が求められる今、小学校での日本語サポート活動も新たに開始しました。

恒例の住道駅前（大阪府大東市）のJAFSチャリティバザールは、雨天のため中止しました。7年目となったアジア・チャリティフェスティバルは、公益財団法人大阪国際交流センターと4度目の共催。コロナ感染防止を図りながら、弁当や飲食の出店も復活しました。映画上映会や対談、歌唱やダンス、ゲームなどにより交流し、在関西のアジア系市民との交流を深める多文化共生チャリティイベントとして231名の参加がありました。

地区活動やプロジェクト支援グループでも、それぞれの支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートを実施しました。

国際理解教育講座として、小学校、



阪急うめだ本店での第2回「水」写真コンテスト展示会

高校、大学や企業等のべ12カ所の計693名に対して講義しました。JAFSぞうすいの会や地区活動の場にて、アジアでの支援プロジェクトを報告し、支援活動への理解やアジア社会の現状理解を促進しました。多文化共生社会の実現を目指して計画していた**アジア文化理解講座**は、コロナにより多くが中止または延期となりました。

大学生の個人応募による**インターンシップ生**3名を受け入れ、活動を通じて、国際協力活動と市民運動について学びました。

法人賛助会セミナーを3年ぶりに開催。日本銀行理事・大阪支店長である高口博英氏による講話と交流会で、関西経済の現状と展望について話し合いました。

社員クラブも3年ぶりに開催。村上市務局長からJAFS創設の思いとボランティア活動の意義について話があり、お互いの交流を深めました。

アジア市民大学では、アジアの国の文化理解に向け、専門家による講義と相互交流を、前年度にコロナのため延期した3回分と、今年度の11回分の計14回開催しました。

第3回となる**日本語スピーチコンテスト**を開催し、13名のアジア系留学生が出場して3名を表彰、また51名が聴講しました。

前年度から継続の「私たちの暮らしから考える**SDGsオンラインセミナー**」を2回分開催しました。

大阪市西区の小学校で、外国にルーツがあり日本語指導が必要な児童9名を対象に、学校生活や授業に馴染めることを目指して**日本語サポート活動**を開始しました。

大阪マラソン2023のチャリティ団体に初めて採択されました。チャリティランナー12名を公募して、ネパール

2023年度 国際交流 事業計画

国	プロジェクト	実施場所	内容・意義【必要資金(円)】
日本・アジア各国	アジアユースサミット(AYS)	日本・アジア各国	アジアユースサミットを通じたユースリーダー育成。ユースの定常活動推進と、今年度のオンライン開催のために、地域を良くするプロジェクトづくりをテーマに、国際的視野の養成と国内外のユースのつながり形成【100万】
フィリピン	ASI 地域開発コース支援	アジア社会科学院(ASI)	農村の社会課題を解決し、貧困なき国作りをする次世代育成のため、アジアの国から2名を、大学院大学ASIの2カ月の地域開発コースへ派遣【30万】

●…JAFS国際協力基金…●

「地球幸せ募金」貯金箱式募金	栄養失調に苦しむ子どもたちの栄養改善を目的とした給食基金に充てる。または、今年度プロジェクトのいずれかを支援する
「アジア井戸募金」募金箱設置	各家庭や店などに募金箱を設置し、井戸建設支援に充てる
「アジアフレンドシップ夢基金」募金	アジア18カ国の草の根の人々と共同で、「アジアフレンドシップ夢基金」を募り、アジアと世界のより困窮する人々への支援金とする

の小学校の水設備建設寄付を集めるとともに、JAFSを広報する機会となりました。

「水」写真コンテストを開催。第1回は国内外から24点の応募があり、5月に審査しました。12月からの第2回は応募数192点。1次審査通過の20作品を、2023年2月に阪急うめだ本店に展示し、一般投票によって上位5作品を選出しました。

活動状況や海外情報を広報

会報「**アジアネット**」を年4回発行し、活動状況報告や海外情報などを広報しました。支援者のほか、全国の国際関連施設にも送付しました。

ホームページや、フェイスブックやインスタグラムなどの**SNS**、YouTubeでは、不特定多数に向け、会報発行より短期スパンでタイムリーに情報を発信しました。特にイベント予告やニュース、寄付募集など、発信に迅速性を要する記事を随時掲載しました。

関係団体との連携協力

各種関係団体と連携し、関西のNGO活動を推進し市民活動の社会意義を広げる活動に協力しています。関西NGO協議会の副代表、国際協力NGOセンターの理事、関西国際交流団体協議会の監事を務めるほか、関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・

2023 年度 社員総会報告

公益社団法人アジア協会アジア友の会第12回社員総会を下記の通り開催しました。社員総数189名（2023年5月31日現在）のうち、会場出席者47名、議決権行使書提出者92名（うち賛成92名、反対0名）となり、合計139名が出席し、定款第18条の規定による総会の定足数95名を満たし、総会が成立しました。

議長については、定款16条に基づき篠原勝弘会長が議事を進行了しました。

日時: 2023年6月10日(土) 14時～ 15時30分

会場: 大阪科学技術センター（大阪市西区）

議案 I: 決議事項

第1号議案「2022年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録の承認」の件
まず2022年度の事業報告が行われました。村上公彦事務局長が総括した後、各事業委員会の担当理事から、事

業報告書に沿って詳細な報告がありました。引き続き財務担当理事より、2022年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録について詳細な報告がありました。特に質問・意見は無く全会一致で承認されました。

議案 II: 報告事項

①2023年度事業計画について

②2023年度収支予算書について

2023年度事業計画について、熱田典子副事務局長（7月1日付けで事務局長代行に就任予定）より、基本方針を中心に報告がありました。2023年度予算については、財務担当理事より収支予算書に沿って報告がありました。各報告事項について特に質問・意見はありませんでした。

収支決算書（2022年4月1日～ 2023年3月31日）

[1] 収入の部				[2] 支出の部			
(単位円)				(単位円)			
科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
1. 会費収入	25,160,000	17,263,500	7,896,500	1. 事業費	78,000,000	54,809,280	23,190,720
（1）社員会費収入	5,040,000	4,540,000	500,000	（1）水(井戸・飲料水供給)	25,350,000	16,267,231	9,082,769
（2）維持会費収入	9,360,000	6,351,000	3,009,000	（2）子ども(里親・教育・学校建設)	27,060,000	17,194,489	9,865,511
（3）賛助会費収入	5,130,000	3,339,500	1,790,500	（3）貧困(生活自立・職業訓練)	6,220,000	1,978,927	4,241,073
（4）学生会費収入	0	0	0	（4）環境(GS活動・植林・バイオガス)	8,370,000	8,079,666	290,334
（5）団体会費収入	500,000	280,000	220,000	（5）ネットワーク推進事業	1,600,000	1,932,929	△ 332,929
（6）法人賛助会費収入	5,000,000	2,750,000	2,250,000	（6）人材交流・育成事業	1,900,000	1,072,888	827,112
（7）ジュニア会費収入	130,000	3,000	127,000	（7）地域広報活動事業	5,800,000	7,911,542	△ 2,111,542
2. 募金・寄付金収入	81,650,000	63,043,497	18,606,503	（8）環境保全・啓発教育事業(土水)	1,700,000	371,608	1,328,392
3. 負担金収入	6,160,000	2,266,104	3,893,896	2. 災害特別助成金支出			
4. 為替差益	0	0	0	（1）災害等罹災者支援事業	7,000,000	5,143,517	1,856,483
5. 受取利息	2,000	438	1,562	（2）ネパール地震復興支援事業	2,000,000	2,068,692	△ 68,692
6. 雑収入	28,000	12,836	15,164	（3）フィリピン台風被災者支援事業	1,000,000	1,326,600	△ 326,600
当期収入合計A	113,000,000	82,586,375	30,413,625	3. 管理費	25,000,000	18,727,603	6,272,397
前期繰越収支差額	8,012,982	8,012,982	0	4. 退職給付引当資産取得支出	0	833,500	△ 833,500
収入合計C	121,012,982	90,599,357	30,413,625	5. 敷金取得支出	0	0	0
				6. 基本財産振替支出	0	0	0
				7. 予備調整費	0	0	0
				当期支出合計B	113,000,000	82,909,192	30,090,808
				当期収支差額A－B	0	△ 322,817	322,817
				次期繰越収支差額C－B	8,012,982	7,690,165	322,817

地区活動では、関西地区を中心に、全国11のエリアごとに地区世話人を中心として、本会の活動と理念の普及やアジアとの「理解と協力と連帯」の輪を広げることを目指して様々な活動が行われました。コロナのためいくつか

各地の会員活動

本会が提唱した**国際グリーンスカウト活動**として国内各地域でも活動しています。吹田部会は、毎月1回の例会と川清掃活動を実施し57コのごみを収集しました。また日本とアジア諸国が共にごみ問題に取り組む**A F S ブルーオーシャンレンジャー**活動では、4月に国内16都道府県で、11月に日本・フィリピン・インドネシア3カ国6地域で同時時間帯に海辺のクリーン活動を行い、オンライン交流も行いました。

「土水」や環境保全活動

第37回「**土と水と緑の学校**」を8月に和歌山県新宮市で開催予定でしたが、コロナのため中止しました。

関連市民活動として、関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会も、各設立趣旨に沿って活動しました。



「アジア井戸ばたサロン」の皆さん

のイベントは中止を余儀なくされましたが、チャリティ企画で得られる資金でアジアを支援することを目的に、可能な限り実施しました。

一方、各地区会に会長・副会長・事務局長・書記から成る組織をさらに整え、1月に地区会長会を実施したほか、会員拡大・地域広報活動委員会を9月から計6回開催し、今後の会員拡

大に向けて様々な方策を議論しました。

各地区活動として以下のようなイベントが開催されました。アジアンホームパーティー／J A F S 高槻、緑とふれあう会（農作業）／第2エリア、ひらかたN P O フェスタ出展／枚方地区、ねやがわ多文化フェスタ出展／寝屋川地区、大阪おもしろウォーク・歴史散歩／なにわ西、ノアノアフスタ／なにわ南、「セカイイチャイシイ水」上映会／河内長野・大阪狭山地区、カラフルキッズ・子ども国際交流ひろば／南河内・松原地区、金剛山登山／富田林地区、チャリティウォーク・チャリティコンサート／第5エリア、西宮国際交流デイ出展／西宮地区、フレンドシップデイ出展／三田地区、どんぐりフェスティバル／奈良地区、ドリアンチャリティバザールINまどか村／生駒地区、佐藤手芸教室バザー／第8エリア、生理小屋オンラインセミナー・ブルーオーシャン作戦・オンラインピアノコンサート／第9・10エリア、など。

プロジェクト支援グループ

海外プロジェクト支援を目的とする17グループが、コロナ感染対策を講じながら、様々なイベントやチャリティ活動による海外支援事業の応援を、精力的に展開しました。

活動したグループは以下の通りで

す。J A F S 本部で毎月開催し贈水を雑炊により支援する「ぞうすいの会」、里親の会を手作り和紙クラフトで支援する「アジア井戸ばたサロン」、スリランカの提携団体を支援する「スリランカ・サルボダヤ友の会」、日印友好学園コスモニケタンの運営を支援する「日印友好学園支援会」、ネパールの活動を支援する「ネパールへのかけ橋」、料理を活かした活動で水支援をする「P A O N」、シルクロードを中心に文化を学び理解し合う「オアシス会」、アジアの若手人材育英資金を支給する「アジアネットワーク奨学会」、ネパールの教育を支援する「ネパール子ども夢基金」、農村の医療・保健向上を支援する「ネパール地域医療支援会」、飲料水支援をしたフィリピン・パンダン町と交流を継続する「パンダン交流会」、毎月の例会を通してインド理解を深める「バート会」、歌ってチャリティ支援をする「歌声サロン」、インドのH I V 家族を支援する「いのちの会校方」、留学生と日本の学生が支え合う「留学生コミュニティーDesign the Community」、ウォーキングによりアジアフレンドシップ夢基金を支援する「道楽の集い（歩く会）」、フィリピンのマリーアンさんの大学進学を支援する「ハルハロ有志会」。

JAFSチャリティイベントカレンダー

2023年夏

月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内 容
7月	7日(金)	生駒市	アイビー歌声サロン	15:00～16:30	生駒市だけまるホール 多目的室	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 窓口：鳥居 090-5663-6123
	9日(日)	西区	第40回土と水と緑の学校 大阪保護者説明会	13:00～14:30	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	無料	8月4日(金)～8日(火)和歌山県新宮市で開催する第40回「土と水と緑の自然学校」に参加される小中学生の親御さん向けの説明会です。 お申込・お問合わせ：事務局 柿島 090-1021-6834
	9日(日)	京都市	日曜日タ礼拝 アジアについて学ぶ	19:00～20:00	日本キリスト教団洛西教会 〒603-8332京都市北区大將軍川端町95番地	参加費無料 席上献金を行います	JAFS創設者の村上公彦事務局長に、アジアの現状やJAFSの活動についてお話しいただきます。献金はフィリピンとスリランカの子どものための教育支援に充てられます。
	11日(火)	西区	第403回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。
	11日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」(皆が驚く初耳学)	15:00～15:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り上げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞きします。 窓口：鳥居 090-5663-6123
	15日(土)	京都市	京都チャリティミニコンサート いにしえ～現世「宵々山の調べに乗せて」	15:00～16:30	日本キリスト教団 洛南教会 JR京都駅八条口より徒歩5分 ダイワロイネットホテル南側東入ル	協力金 2,000円	フルート 福島 京さん、オーボエ 高岡 友美さん、チェンバロ 澤 朱里さんの3人による演奏です。コンサート後は京都の祇園祭宵々山をお楽しみください。コンサートの協力金はフィリピンとスリランカの子どものために安心して学べる教育の環境を整える支援に充てさせていただきます。
	16日(日)	関東	JAFS関東おさんぽウォーク (7月) 国立西洋美術館常設展	14:00～16:00	国立西洋美術館 (JR上野駅下車徒歩1分)	1,000円 十常設展入館料(入館料は高校生以下・シニア無料)	「松方コレクション」を中心に、西洋のオールド・マスター(18世紀以前の画家)たちの作品を鑑賞できる国立西洋美術館。建物は世界文化遺産にも指定されています。常設展を見学の後は、トエエモンさんのお店・浅草の「寿司令和」で懇親会も予定しています。
	17日(月・祝)	奈良市	つなGO!アジア Part.1タイ	14:00～16:00	奈良基督教会 近鉄奈良駅よりすぐ	小学生以上 500円	大好きなタイと日本の学校間交流を20年間以上続けていらっしゃる田中正之さんが「タイと日本の魅力」について語ります。まだ勾玉(まがたま)作りやラビエンス(迷宮)を歩いたり、タイフード料理などを作って楽しめます。 お申込窓口：古本 090-1712-3285
	17日(月・祝)	新宮市	第40回土と水と緑の学校 新宮保護者説明会	13:00～14:30	新宮市役所別館会議室(旧職業訓練センター) 和歌山県新宮市春日1-35	無料	8月4日(金)～8日(火)和歌山県新宮市で開催する第40回「土と水と緑の自然学校」に参加される小中学生の親御さん向けの説明会です。 お申込・お問合わせ：事務局 柿島 090-1021-6834
	20日(木)	奈良県	第22回JAFS道楽の会ウォーキング	11:00～15:30	近鉄大阪線長谷寺駅11時集合	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。今回は長谷寺とその近辺を歩きます。 申込：石原 090-1134-3085
8月	22日(土)	西宮市	なにわ西チャリティウォーク「健康散歩：西宮越木岩神社と夙川上流緑道」	13:30～16:00	13:30阪急中陽線苦楽園公園駅改札口前集合～16:00頃阪急夙川駅解散	1,000円	3歳以下の幼児を抱いて行う「泣き相撲」等で有名な西宮越木岩神社を訪れ、その後、夙川上流緑道まで散策します。熱中症対策で飲み水をご持参ください。 申込：伊藤 勝 090-2410-5529 または 風早 090-3944-1582
	20日(金)	天王寺区	法人賛助会主催 日本銀行理事大阪支店長 中島 健至氏の卓話と懇親会「最近の金融経済情勢と今後の展望」	18:30～20:30	ホテルアウィーナ大阪・レストラン近鉄上本町駅より徒歩5分または大阪メトロ谷町9丁目駅より徒歩7分	5000円(懇親会費含む)	日本銀行理事大阪支店長 中島 健至氏が、依然終息が見えないウクライナ情勢や円安等、激変する世界情勢の中、金融経済の現状や今後について語り、共に考えます。 申込：事務局 柿島 090-1021-6834
	29日(土)	生駒市	アジアフレンドシップ夢基金チャリティ・チェロコンサート	14:00～	生駒市コミュニティセンター(生駒セイセイビル内) 生駒セイセイホール	前売2000円 当日2,500円	ドイツ出身でケルナーアカデミー・ウィーナーアカデミーの首席チェロ奏者クラウス＝ディーター・プラントとアンサンブル希望による共演です。主な演奏曲は、アメージングレース、君をのせて、愛の花、365日の飛行機、他。 窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	4日(金)～8日(火)	新宮市	第40回土と水と緑の学校	4日(金)現地 14:30～16:30 8日(火)13:30	和歌山県新宮市高田地区 ①大阪からバス利用の場合：8月4日(金)8:30JAFS集合 ②現地参加の場合：8月4日(金)13:30新宮市役所別館会議室集合	大阪発着：42,000円 新宮発着：29,000円	和歌山県新宮市高田地区の豊かな自然の中で、リーダーの下、小中学生が4泊5日の共同生活を送り、山、川、海自然の素晴らしさと仲間とのかけがえのない友情を育みます。 定員：40名(先着順で締め切ります) 窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	5日(土)	大阪市	第30回スリランカ講座～スリランカ人留学生を招いて～	13:00～15:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	2,000円(スリランカカレー付)	世界遺産や豊かな自然、アーユルヴェーダで人気が高まっているスリランカ。コロナから大変な経済危機を迎え、少しでも生活を改善できるよう、現地提携団体とともに活動しています。日本に住むスリランカの方をゲストに迎え、元気になるスパイスの入ったスリランカカレーの昼食後にお話を伺います。
	19日(土)～20日(日)	オンライン	第8回アジア・ユースサミット(AYS)	12:00～18:00(2日間とも)	オンライン	無料	アジアの高校生たちが「サステナブルな地域づくり」に対し、どのような課題があるのか、課題解決のために、足元から何ができるのかを議論し、アクションを起こします。テーマ：地域を良くするプロジェクトを創ろうー平和な地域づくりに向けてー 窓口：事務局 熱田、坂口 (ays@jafs.or.jp)
9月	21日(月)～23日(水)	関東	小谷村ワークキャンプ	21日(星前到着)23日(昼食後解散)	信州小谷村立屋共働学舎 長野県北安曇郡小谷村大字千国乙5155	11,000円 宿泊・食事込み(交通費は別途実費)	いろいろなハンディを持った人が共に働き生活するコミュニティ「共働学舎」のメンバー達と、北アルプスの山里で、早朝から家畜の世話、農作業のお手伝いをします 夜は、自分達で調理した食事で、学舎の皆さんと楽しい交流会。今の生活を見つめ直し、現代社会の問題についても考えるワークキャンプです。
	9日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学第1回 ベトナムとシンガポールから見た未来のアジアへの想像から創造へ	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円	日越大学・ハノイ国家大学客員教授の桂良太郎氏がベトナムとシンガポールの社会福祉の最近の現状からアジアの未来について語ります。 窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	12日(火)	西区	第404回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。
	12日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」(皆が驚く初耳学)	15:00～15:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り上げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞きします。 窓口：鳥居 090-5663-6123

9月	12日(火)～17日(日)	インドネシア	スタディツアー「バリ島のマングローブと棚田とごみからサステイナブルを考えるエコツアー」	左記日付は現地集合・解散日	9月12日(火)夜バリ・デンパサールの空港集合、9月17日(日)同空港解散(往復航空券は各自手配、または旅行会社を通じてJAFSスタッフと便をご紹介できます)	98,000円(航空運賃や海外旅行保険料は別途)	◇バリの豊かな自然とともに生きる営みを、海のマングローブ林や山の棚田で体感します ◇自然が破壊・汚染されている現状を実際に見て、環境改善や自然回復のための現地の取組みを視察し活動に参加します ◇日本やバリでできることを現地の人と共に考えます ◇バリの大学生と一緒に活動するので、日本の大学生さんぜひ！ 詳細問合せ先：事務局 川本 06-6444-0587
	17日(日)	交野市	ドリアンブランニング・チャリティバザール&ステージ IN マナリ村(大阪府交野市私市3059)	10:00～15:00(予定)	*京阪交野線「私市駅」より京阪バスまたは奈良交通バス「磐船神社前」下車 徒歩10分 *近鉄「生駒駅」より奈良交通バス 北田原方面行 終点「北田原」下車 徒歩10分	無料	ドリアンブランニング主催 JAFS後援 多彩なステージとチャリティバザーで楽しい一日をお過ごしください。費用の一部はインドの子どもの支援に充てさせていただきます。尚、ステージ出演者30分・バザー出店者各1,000円で募集中です。 窓口：鳥居 090-5663-6123
	21日(木)	未定	第23回JAFS道楽の会ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 お問合わせ・申込：石原 090-1134-3085
	24日(日)	生駒市	チャリティ・ライブ&マルシェ in生駒	11:30～15:30	生駒コミュニティセンター1階ホール 近鉄生駒駅南口よりすぐ	前売2,000円(500円金券付き) 当日2,500円	アジアの多彩な歌・踊りを楽しみながら、美味しい料理をいただき、バザールも楽しんでアジアの人たちと楽しく交流しましょう。 *留学生・障がい者・小学生1,000円(500円金券付き) 窓口：鳥居 090-5663-6123
	30日(土)	平野区	JAFSなにわ南地区会主催 第5回ノアノアフエスタノアノアカフェ講演会&パーティ	11:00～14:00(予定)	〒547-0012大阪市平野区長吉六反3-1-32 アークショップノアノア (大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分)	1500円(昼食付)	就労継続支援B型事業所アークショップノアノアにカフェがオープンされ、なにわ南地区の活動拠点として活動が行われることになりました。今回も経験豊富な講師による心が和むお話と楽しいアトラクションで心豊かなときを過ごしましょう。 窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
10月	1日(日)	天王寺区	第4回日本語スピーチコンテスト	14:00～16:00	クレオ大阪中央・4階セミナーホール 大阪メトロ谷町線四天王寺前夕陽丘駅より徒歩5分	チャリティ参加費 1000円 留学生無料	毎年恒例の日本語スピーチコンテスト。留学生が「日本に来て思ったこと、感じたこと」を率直に話します。日本を見直す絶好の機会ですので、ぜひ聴講にお越しください。ご参加者にも審査いただきますのでよろしく願います。 窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	2日(月)	フィリピン	フィリピンバンドンパイブライプロジェクト 水道局完成25周年記念式典	終日	フィリピン パナイ島 バンドン町	現地までの交通費・宿泊等は各自負担	1996年から多くの方のご協力で5年間かけて完成した水道プロジェクト。年々水道の利用者は増え、安全でおいしい飲料水が得られる町No1になりました。水道局25周年の機会に、JAFS最大の「いのちの水の物語」を訪ねにいきませんか。 ◇式典への参加ご希望の方はお問い合わせください。 事務局 岡本
	7日(土)	大東市	JAFSチャリティバザール&ステージ ※雨天の場合は、翌8日(日)に開催します。	10:00～16:00	JR王道駅 北側デッキ広場	無料	楽しく多彩なステージを楽しみながら、美味しい料理を味わい、フリーマーケットで買い物を楽しむことでアジアへ井戸支援を行います。 窓口：鳥居 090-5663-6123
	10日(火)	西区	第405回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。
	10日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」(皆が驚く初耳学)	15:00～15:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り上げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞きします。 窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	14日(土)	未定	JAFS地区会長・世話人会&新入会員ウェルカムパーティ	10:30～14:00	未定	未定	各地区会の会長・世話人が一堂に会し、各地区の活動状況について報告するとともに会員拡大の新たな展開について話し合います。また新入会員ウェルカムパーティ(12:00～)も開催し、12:30から交流会を行いお互いの親睦を深めます。 窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
11月	14日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学第2回 地政学からみる日本とアジア：アジア主義を考える	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円	地理学思想、地政学が専門の實一穂氏が地政学の視点から「アジア主義」(日本と他のアジア諸国との関係やアジアの在り方に関する思想や運動)について戦前から現代にいたるまでの変遷について語ります。 窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	18日(土)	関東	ウクライナの平和のために奏でるショパンの名曲～瀬田敦子チャリティコンサートin久我山教会	14:00～15:40	日本キリスト教団久我山教会 京王井の頭線久我山駅より徒歩6分	前売り料金 一般:2500円 学生:2200円 ペアチケット:4,000円	ロシアの侵略で甚大な被害を受けているウクライナの人たちに、平和と安全な暮らしが一日でも早く訪れるように、願いを込めて行うチャリティコンサート。コンサート終了後は、瀬田さんとの懇話会も予定。瀬田敦子さんは、20年に渡るJAFSとのチャリティコンサートと音楽配信を通じ、アジアの貧しい子どもたちのための、社会貢献活動にも取り組んでいきます。ぜひご参加ください。
	●緑とふれあう農園の作業日 <場所> JR星田駅より徒歩8分 7/8(土)、7/22(土)、8/12(土)、8/26(土)、9/9(土)、9/23(土) 午前7時～10時 10/14(土)、10/28(土)、11/11(土)、11/25(土) 午前8時～11時 <内容> 季節の野菜を植えて育てます。緑を育てる楽しさを共に分かち合いましょう！はじめて参加される方は事前連絡ください。						

♡「もったいない」のきもちを社会貢献へ♡

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。

〇書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン：事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。

〇服、アクセサリ、カバン等：買ったけど数回しか使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

断捨離 × 国際協力

もったいないを力に！

寄付いただいた物品は、チャリティーショップ KANAU で販売。
その売上がアジア協会の支援活動に役立てられます。

洋服(春・夏服) ※冬服は9月以降にお願いします

鞆

本/CD/DVD

服飾品 アクセサリー ショール等

問合せ・受付先 ▼ 火曜定休 10:00～18:00 JR 寺田町駅より徒歩 10 分

KANAU

夢かなうチャリティーショップ

〒544-0025
大阪市生野区生野東 2-2-15
☎ 090-4161-0236 (青木)

詳細 ▶

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）
2023年3月1日～5月31日

●維持会員
大西恵子／高山結衣／仲田幸二

●賛助会員
稲田伊智子／亀澤広美／柴谷享一郎／

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）
2023年3月1日～5月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

浅野弘／足達新／天野紀／池田悦子／
上野孝一／大谷タカコ／大野嘉宏／大
本和子／岡田遥／岡本佳子／沖田文明
／小澤勇／小山田宗弘／笠谷正博／川
合千代子／川端勝／小林久仁子／近藤
眞道／齋藤公代／佐々木実／佐藤理香
／更家充／島井宏子／平興隆／高田晃
宏／辻川楠美／富田和政／鳥居京子／
中内一揚／中島和子／根津千枝子／野
池徹／野木義弘／野口明英／堅島五兵
衛／藤本加代子／細谷詩子／法花敏郎
／松本静枝／松本督・保恵／丸尾裕之
／八束浩一／山口克隆／山田英男／渡
部高明／渡邊瑠璃子

●維持会費

青木洋介／秋山タカ子／浅尾みちる／
浅野照子／雨森清忠／有山加代子／幾
谷眞規子／泉原真由美／市來賜代／市
来千代子／伊藤エリサ／伊藤勝／伊藤

智子／福井えり／福島朋子／福本義克
／房本晃／藤井順子／藤木一世／藤木
茂利／藤本和富／船戸尚子／古川光昭
／古山陽一／堀正巳／松本典子／的場
義恵／宮田幹／妙代和也／村本康治／
毛利仁智厚／森利明／森長敬／森山尚
子／安留治／山岡輝清／山口香世子／
山本勝彦／山本幸子／横井明子／饒平
名知幸／鎧坂総子／霊松寺岡村良孝／
和田多喜子

●賛助会費

青木洋／浅井聡子／荒川奈秀子／有井
慶子／飯田有子／池嶋伸晃／池住美樹
／池田倫子／池田美奈子／石尾美佐子
／石川忠義／石田尚美／市村睦子／伊
藤朝信／稲田伊智子／井上康／上野孝
子／上畑育美／植村友恵／鶴飼卓／宇
田和博／疇地道俊／大岩典代／大澤淑
／大谷まり子／大橋昇子／大森文子／
小笠原良二／沖田弘子／沖野雅一／沖
本加代子／沖本然生／奥野恵一／奥村
香保里／奥村文子／柿島頼紀／加芝ナ
ミ子／梶原英一／櫻原良／勝成忠／加
藤繁生／鎌田公子／亀澤広美／川島敏
子／川端美智子／上林繁子／岸本啓子
／北村英夫／北村光弘／狐塚真美子／
絹田悦子／木下マキ子／木原民世／木
村和夫／木村征代／桑原由紀子／奥水
飛鳥／小寺信子／真田朱美／柴谷享一
郎／渋江理香／シュレスタナニマヤ／
新谷百代／新本均／鈴木直行／関一也
／相馬隆人／平眞知子／高橋弘美／高
宮寿子／高山純一／田口吉三／田辺麻
里／谷総安雄／谷口惺／田村まき／辻
貴文／辻益廣／津田宏久／壺井利一／
外村茂一／富田修／内藤健一／内藤肇
／内藤雅貴／中島小夜子／中西邦夫／
中野鉄馬／中村操／西亀真／西野修平
／西原茂／二野英子／野上麻理／野島
哲也／野村浩之／箱崎健明／橋本靖夫
／畠山常夫／畠中美代子／花光智香子
／羽田孝彦／浜田春樹／林温子／林八
重子／原明博／東谷香保子／平川哲也

船戸康夫

●ネパール子ども夢・基金

鎌田勝江

●助成金

○ウクライナ保健

外務省日本NGO連携無償資金

○ネパール防災事業

外務省日本NGO連携無償資金

○ネパール食と栄養支援事業
味の素ファンデーション

○ネパール環境改善事業
りそなアジア・オセアニア財団

○アジアユースサミット（AYS）支
援事業
積水ハウス(株)

●補助金

○フィリピン地域環境改善事業
TOTO水環境基金事務局

●43周年応援募金

洛南教会

●東日本大震災復興支援寄付
元橋亮治

●ネパール地震被災者支援
今枝美弥子

●トルコ地震支援

秋山タカ子／鶴山常男／浅沼暁子／浅
野直人／芦澤緑／熱田典子／天野澄子
／雨森清忠／荒川鉄也／有田稔／栗野
アツ子／安藤幹雄／飯田有子／幾谷昌
彦／池田ミオ子／生駒晴代／井坂猛／
石田和子／石原京子／伊藤エリサ／今
枝美弥子／岩田悦子／岩本郁子／上田
律子／上野孝一／上野道善／植村ルリ

／平野千晴／平林佳江子／藤本千恵／
藤原昭子／藤原朗／藤原勝徳／麓忠司
／堀田紀美子／堀富子／堀口節子／本
間耕一／前田幸利／真嶋克成／松居安
佐子／松尾慶治／松田高志／松長朋子
／松野光伸／三木信子／水野恵理子／
水本裕子／宮地文子／宮嶋淳／村上健
治／村口ミヨ子／森奈良好／森田浩／
森原尚子／安井映似／柳大路功／柳田
芳孝／山下良一／山田伸枝／山本晴子
／湯浅洋子／行廣真紀／吉田聡子／愿
山紀代／若杉徹朗／若林美幸／和田み
な子／渡辺彩智子／渡辺豊子／渡邊宏
樹

●ジュニア会費

徳永健／徳永優

●法人賛助会費

(株)ウエストフィールド／(学)エール学園
／NNT労働組合関西総支部／(株)エム
ビ／(財)大阪府国際交流財団／(株)カステ
ロ／(株)グローバル／(株)ジャパンボトラ
ーズ／関西電力労働組合京都地区本部
／京セラ労働組合本部／京都西南ロー
タリークラブ／(株)元商会／(株)グロー
アップ／(株)公益社／(株)宝屋／武田病院
グループ／(株)ソールオカフジ／(有)西田
興産／日広機設(株)／日東薬品工業(株)／
パシフィックリッドジャパン(株)／パナ
ソニックグループ労働組合連合会／や
すふく内科クリニック／(株)ユニコーン

●里親会費

アジア井戸ばたサロン／石原歩／石原
基義／伊藤誠／岡部美和／奥野恵一／
川端美智子／絹田悦子／木下敏子／木
村依江／児下美恵／小林久仁子／今野
裕章／斉藤渡／佐藤潤子／佐藤正明／
下村蓮美／平眞知子／田中修／田中和
子／谷総安雄／田村章子／坪内廣次／
東代清隆／徳永昌彦／中島綾／中村弓
絵／西原智珂子／西澤純／西宮教会婦
人会／西山美菜子・千晶・敦記／根津千

枝子／畠山房子／日生下卓／ピクマリ
オン学院奈良教室／平川哲也／藤原勝
徳／前田恵美子／前田泰子／松原直弘
／三里健一／武藤英利矢／村上聡代／
森利明／山岡輝清／山崎哲／Ranon
Vendell Gail／渡部司

●コスモニケタン指定

木下敏子／コスモニケタン支援会／J
AFS高槻／姫野佐智子／麓忠司

●インドバダトラ小学校支援
川端勝／木下敏子／嶋岡房子
●チャイルドアカデミー指定
JAFS京都地区会

●フィリピンストリートチルドレン指定
JAFS京都地区会

●一般寄附

熱田親憲／上野孝一／大久保洋子／沖
田文明／Koshia Jun／木下良子／柴
村壽子／齋藤公代／酒井聖／櫻井紘哉
／佐藤文昭／杉崎仁志／認定こども園
すみれ幼稚園／ソフトバンクつながる
募金／館野晶光／田山賢一／チャリテ
イショップKANAU／鳥居建十／西
川京子／西田貞之／はりま平安教会／
藤原正昭／法花敏郎／眞砂哲志／松本
静枝／宮野谷篤／村上公彦／毛利吉男
／守下宣子／森本好子／柳井一朗／横
瀬雅人／渡邊宏樹

●井戸指定（水支援）
荒川正嗣／大阪府立大手前高校／角英
樹／蛭名健仁／斉木寛斗／柴田治男／
延原修

●井戸建設積立で
(財)H2Oサンタ／JAFSぞうすいの
会

●井戸建設指定
○インド

繁之／八木隆太郎／安井映似／安里佳
世子／八束浩一／柳田芳孝／山上知佐
子／山澤寛子／山下良一／山野和子／
山野真三／山野ふさ好／山原清一郎／
山本晴子／吉田俊朗／米田明正／脇家
崇夫／和田幸子

●フィリピン台風被災者支援

荒川雄毅／有田稔／池田美奈子／大岩
典代／大久保悠／太田宜子／加芝ナミ
子／上林繁子／島津博義／(公)真宗大
谷派乗雲寺／新羅和子／多胡恭子／西
村節子／森崎律子

●大阪マラソン（水支援）
井上裕作／(株)スタイズ

●集めるキャンペーン
○未使用・外国コイン
乾聖陽／宇田和博／南野紀美子

●物品寄贈
澤村和子／高橋美也子／中西豊次／中
山寺青年教師会

渡辺治彦／匿名井戸2基

○カンボジア
(株)セゾン情報システムズ

○スリランカ
(株)クラウドリンク

○ネパール

小原純子／沓野泰之／(株)元商会／(株)
クラウドリンク／(株)グローアップ／未
広眞樹子／直の会土居止戈代／(株)ユニ
コーン

○ハングラデシユ
(株)元商会／(株)クラウドリンク／(株)グ
ローアップ／濱口みどり

○フィリピン
アズワン(株)／(株)ユニコーン

●水写真コンテスト支援
(株)三愛コスモス

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／岡本圭司／古賀旭／中島和
子／西川京子／村上公彦

●アジア・フレンドシップ夢基金
JAFS歩く会／沖本然生／JAFS
歌声サロン／ドリアンブランニング／
鳥居建十／浜崎美枝子／森崎律子／J
AFSワンコインセミナー

●アジア・子ども支援
宇治教会／竹下晋平

●アジア植林支援
(株)日本入試センター／ネパールへのか
け橋

●アジア地域医療支援
八木隆太郎

私は1964年、ネパールのカトマンズで生まれました。88年、大学生のときに開催された「奈良シルクロード博覧会」の手伝いで初来日したのがきっかけで日本が大好きになりました。89年に再来日して東京の日本語学校で勉強し、貿易商社に就職しました。

海外の民芸品などの販売で訪れた京都

が気に入って、京都でネパール料理店を開業することにしました。もともと独立志向が強かったのです。以来17年間にわたり、京都だけでなく東京に数店、宮古島、石垣島まで出店しました。コロナ禍で縮小を余儀なくされ、今は東京と高槻の2店舗を営んでいます。高槻を選んだのは京都が近く、日本庭園のある割烹店を譲り受けることができたからです。

ネパール生まれといっても、私はネパール族の出身で、祖先は戦前はチベットへ出稼ぎに行っていました。ネパール族は今でもネパール語と全く異なるネパール語を話し、ネパール

活躍するアジア



サキャ・アニル・クマルさん

(ネパール)

あまり知られていないアジア料理を広めていきたいと思っています。

ネパールの学校は英語で授業

日本に住んで34年。妻も日本人です。社会保険料などの制約があり、日本国籍は取らずに、永住権のみ取得しています。亡くなった両親の墓は京都

人口約3千万人の10%を占めています。ネパールの「クマリ」と呼ばれる女性の生き神様はネパール族です。現在、ネパール料理店「アジアン・ガーデン・ダイニングASAN」を開いています。インド・ネパール料理はどこにでもあります。カリバカリなので、むしろネパールやチベット料理のような

にあり、兄弟も日本に住んでいます。ネパールに帰るつもりはありません。日本食も大好きですから、このまま日本に住む予定です。ただ、祖国に対する社会貢献として、空き缶を集めて得たお金でネパールに学校を寄贈したことがあります。

近年、ネパールでは物価が高騰し、

日本の子どもの学力向上に貢献したい

ガソリンや肉は日本より高いくらいです。しかし賃金が安く、人口の25%にあたる800万人が出稼ぎし、日本にも多く来ています。そのため学校でも英語で授業が行われているほどです。一方、最近の日本を見ていて気がかりなのは、急成長するアジアに比べて子どもの学力（特に英語や数学）の向上が鈍化していると感じる事です。

発展するアジアに後れ取るな

私の夢は、ネパールから教師を招いて、英語と数学の私塾を開くことです。特に生きた言語を身に着けるため、小学校低学年の子どもを対象に無料で始め、学校の宿題もその場ですることで帰宅後の負担をなくし、高い評価を得てから有料で広めていきたいと思っています。日本は優れた技術があり、これまで海外へも多くの貢献をしてきましたが、今、アジアは急速に発展しています。後れを取らないためにも子どもたちの学力を向上させたいと願っています。

※アニル・クマルさんのネパール・ネパール料理店は「アジアン・ガーデン・ダイニングASAN」（世田谷店・高槻店）。経営：株式会社SAKIYA (<https://sakisky-garden-dining.asan.owstip/>)

ネパール・ネパール料理店「アジアン・ガーデン・ダイニングASAN」高槻店の前で



活動再開にご期待ください

コロナによる規制が緩和され、JAFSの国内活動も、3年の中断を経て再開するものや、対面での交流機会など増えています。スタッフのアジア出張も再開し、現地の生の情報をお伝えできるようになりました。アジアに行くスタディツアーやワークキャンプも始めていきます。

編集後記

□ シアはなぜウクライナを攻める？ かねての疑問の一端が逢坂冬馬著『同志少女よ、敵を撃て』を読んで解きました。外敵に再三侵略された記憶は民族のトラウマとなる。新聞やテレビの解説よりよく分かります。（黒）

今 夏、40年目を迎える「土と水と緑の学校」（和歌山県新宮市）が3年ぶりに開催されます。コロナ禍でリアルの人間関係が希薄になった子どもたちが再び共に笑い、心の底から喜び感動する一瞬が楽しみです。（裕）

日々、世界の出来事をニュースで見る度に頭をよぎるのが「分断」。地球を持続可能とする役割が課せられている私達にとって「連帯」が重要な今、皆が手をつなぐ世界の実現を先ずはJAFSから始めましょう（典）

今年、梅雨も夏も早く来ましたが、東南アジアも、暑くて大変です。皆さんの暖かい心が、支援として多くの恵まれない人々にいきわたります。本当にありがとうございます。くれぐれもお体を大切にしてください。（金）

規制緩和により私旅行で久しぶりに海外へ。ベトナム3都市を訪問。ホーチミン中心部には先進的な高層ビルが林立。見えにくい貧困や散乱ごみには気付かなかった3日間。観光地には分別ごみ箱がありました。（川）

入会・寄付ご案内

会員となって継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力をお願いいたします。

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892 【口座名 シャ）アジア協会アジア友の会】

環境コラム

ヌートリア@鴨川

京都を流れる鴨川のほとり。先日、いつも自転車で通るエリアより南の出町柳近くを歩いていると、初めて見る看板を発見。『ヌートリアに餌を与えないください』と書かれています。「え！ここにヌートリアがいる!?」と驚き調べると、実は鴨川で10年以上前から目撃されていて、京都府・市も対策しているようなので、私が気づくのが遅かっただけです。自転車のスピードでは、看板にもヌートリアにも気づかなかったのかも。

私は鴨川でヌートリアを見たことはありませんが、5～6年前、京都嵐山の桂川に架かる渡月橋のたもとで川岸を泳ぐヌートリアを見ました。近くで「あ、ヌートリアだ」と声がしたので目を向けましたが、ぱっと見たところドブネズミかと思えます。私には近寄りた対象でもないのですが、かわいいと思って餌をやる人もいます。

ご存知の方も多いと思いますが、ヌートリアは南アメリカ原産で、日本には本来いない外来種。外来生物法で、アライグマやオオクチバスと同じく「侵略的な外来生物（特定外来生物）」に指定され、飼養・保管・運搬・輸入が規制され、駆除対象です。罪のない生物の駆除には心痛みますが、生態系保全には必要なこととして専門の方がしてください。外来種に餌を与えるのは飼養とも言え、生存や繁殖に寄与してしまうので、こちら

は私たち一般人が気を付けるべきことですね。ヌートリアは、安価な毛皮を目的に、第2次大戦ごろ軍服用に世界各国で飼育され、日本でも西日本を中心に飼われていたのが、戦後に放たれ野生化。ネズミの仲間で繁殖力が高く、中国・近畿・東海地方で分布が広がっています。大阪城のお堀や淀川にもいるようなので、上記地方には「とっくに知ってるよ」という方も多いのではないのでしょうか。日本在来の貝類などを食べるので生態系に悪影響を与え、農作物への被害も起きていて、河川の堤防に穴を開けることもあるそうです。

ちなみにアライグマは、アニメ「ラスカル」の影響か、かわいいペットとして北米から持ち込まれた後、野外に放たれ全国的に繁殖しています。

ほかにもアメリカザリガニ、アカミミガメ（ミドリガメ）は外来種であるものの、既に広く家庭で飼われているため規制の対象外でしたが、6月1日から“条件付”特定外来生物として追加。捕まえて家でペットとするのは良いと例外扱いされつつ、野外放出には規制がかかるようになりました。家で飼うなら、死ぬまで面倒を見ましょう。特定外来生物は計157種となりました。逆に日本のカブトムシ・タヌキ・コイ・ワカメなどは、海外では外来種としてご迷惑をかけています（人間のせいですが）。（JAFSスタッフ 川本 裕子）



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2023年7月 154号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫

川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self Check 2023



HPもご覧ください

日印友好学園パダトラ小学校の校庭で
カバディをして遊ぶ若者たち。数千年
の歴史を持つ、鬼ごっことドッジボー
ルを融合したようなスポーツだ。イン
ド、マハラシュトラ州ガッチオリ県

◀表紙の写真 強い日差しが差す田園の道を
仲良く学校に通う子どもたち。初めて訪
れたバングラデシュは、人の心がとても
「温かな」国でした。5月2日、ネトロ
コーナ県。4〜6ページに同国の特集記事